WN-G54/A

取扱説明書

150456-01

もくじ

本製品を使って無線接続するまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

必要なときに読むところ

本製品の詳しい設定や使用中のトラブルがあったときの解決法です。

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。
また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有料修理となる場合があります。

煙がでたり変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。
　指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。

給電されているケーブルを接続すると、発煙したり、火災の原因になります。

本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、降雨降雪中の屋外、海岸、水辺などでの使用は火災・感電・故障の原因となります。

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。また、絶対に通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

禁止

本製品を病院内で使用しないでください。
医療機器の誤動作の原因になることがあります。

厳守

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用してください。
電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

禁止

本製品を飛行機の中で使用しないでください。
飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータから本製品を取り外してください。

禁止

日本国外で使用できません。

厳守

本製品は安定した場所に設置してください。
ぐらついた台の上や傾いたところには置かないでください。
落ちたり、倒れたりして事故の原因となります。水平なところに置いてください。

ACアダプターについて

厳守

感電注意

発火注意

AC アダプターの取り扱いは以下のことにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

- ●ACアダプターを使用する際は、必ず添付のACアダプターもしくは指定のACアダプターを使用してください。
- ●ACアダプターの上にものをのせたり、かぶせたりしないでください。
- ●ACアダプターを保温・保湿性の高いもの（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）の上ではご使用にならないでください。
- ●本製品に添付のACアダプターは、AC100V専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
- ●ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- ●ACアダプターをコンセントから抜くときは、必ずアダプター部分を持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災・感電・故障の原因となります。
- ●濡れた手でACアダプターを、コンセントに接続したり抜いたりしないでください。感電の原因となります。
- ●ACアダプターがコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコンや本製品に触らないでください。感電の原因となります。
- ●ACアダプターはほこりが付着していないことを確認し、根本までしっかり差し込んでください。ほこりなどが付着していると接触不良で火災の原因となります。

⚠注意

注意

本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障などに備えて定期的にバックアップを行ってください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。
●振動や衝撃の加わる場所　●直射日光のあたる場所　●湿気やホコリが多い場所　●温湿度差の激しい場所　●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）　●強い磁力・電波の発生する物の近く（磁石、ディスプレイ、スピーカー、ラジオ、無線機など）　●水気の多い場所（台所、浴室など）　●傾いた場所 ●本製品通風孔をふさぐような場所（保管は問題ありません） ●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）　●静電気の影響の強い場所　●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

禁止

パソコンから本製品にアクセス中に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

厳守

ケーブルについて、下記のことにご注意ください。

●ケーブルは足などに引っ掛からないように、配線してください。足を引っ掛けると、けがや接続機器の故障の原因となります。
●熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接触不良などの原因になります。

使用上の注意

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下の注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話、PHS、テレビ、ラジオを、本製品の近くではできるだけ使用しないでください。

携帯電話、PHS、テレビ、ラジオ等は、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等などは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：サポートセンター電話番号：　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

その他のご注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。

・モーターなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

弊社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

※セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、株式会社アイ・オー・データ機器は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について説明します。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞10ページ

▼

モードについて

各モードの説明をお読みになり、環境に合ったモードを選択してください。

☞12ページ

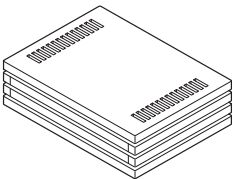
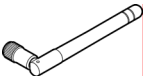
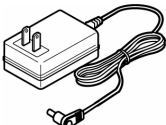
▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞17ページ

▼

各部の名前とはたらき

本製品の各部の名前とはたらきを確認します。

☞19ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながらご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

内容物	
□ 無線アクセスポイント（１台）	□ LANストレートケーブル（１本：約１m）
□ アンテナ（１個）	□ ハードウェア保証書（１枚）
□ ACアダプター（１個）	□ 「2.4GHz帯無線機器注意」シール（１枚）
	☑ 取扱説明書（１冊：本書）

■アンテナは添付のものをご使用ください。
■ACアダプターは添付のものをご使用ください。
■箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
■イラストは若干異なる場合があります。

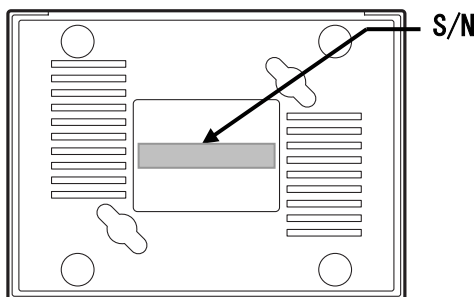
《ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードについて》

ユーザー登録をする際や、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にS/N(シリアル番号)が必要な場合があります。
S/Nは本製品に貼られているシールに印字されている12桁の英数字です。
（ 例： ABC1234567ZX ）

▼S/Nをメモしてください。

- ●ユーザー登録 ⇒ **http://www.iodata.jp/regist/**
- ●サポートソフトのダウンロード ⇒ **http://www.iodata.jp/lib/**

《本製品の S/N の位置》

S/Nは、本製品下面に添付されています。

モードについて

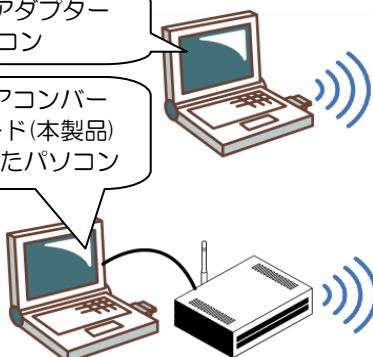
本製品には次の５つのモードがあります。モードにより設定方法が異なります。
ご使用になるモードを選択してください。

注意！

本製品は選択したモードのみで動作します。複数のモードの同時利用はできません。

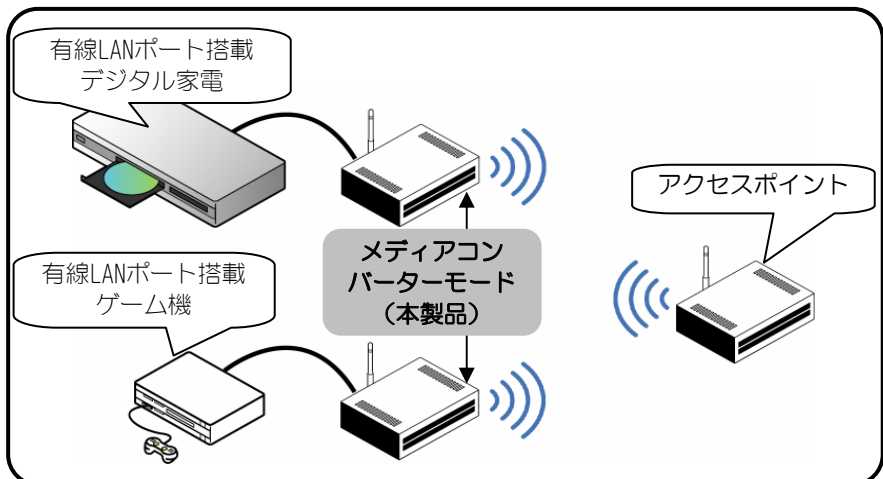
□ APモード（出荷時設定）　　⇒　40ページ

無線LANアダプターを搭載したパソコン同士の通信を、本製品を介して無線化することができます。（無線アクセスポイントとして動作します。）
また、本製品のLANポートに接続した機器と無線LANアダプターを搭載したパソコンの通信も無線化することができます。

●指定のLANケーブルを使用し、本製品のLANポートと接続できる機器
　-ハブやパソコン
　※ハブ下に取り付けられる機器は、ハブの仕様にしたがってください。
●無線通信できる機器
　-IEEE802.11g/b無線LANアダプターを搭載したパソコン
　-本製品の[メディアコンバーターモード]
　※無線アクセスポイントとは通信できません。
　※使用できる暗号化機能 … WEP、WPA-PSK、WPA、802.1x/EAP

□ メディアコンバーターモード　⇒　51ページ

パソコン、ゲーム機、デジタル家電（DVD/ハードディスクレコーダー）などのLANポート（Ethernet端子）を搭載した機器と無線LANアクセスポイントの通信を無線化することができます。
ただし、本製品のLANポートに接続できる機器は１台のみとなります。
本製品にハブを取り付け、複数台の機器を無線接続したい場合は、シングルブリッジモードやマルチブリッジモードをご利用ください。

●指定のLANケーブルを使用し、本製品のLANポートと接続できる機器
-有線LANポートを搭載したパソコン
-有線LANポートを搭載したゲーム機
-有線LANポートを搭載したデジタル家電（DVD/ハードディスクレコーダーなど）
※ハブを取り付けることはできません。

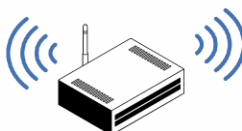
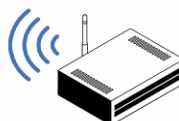
●無線通信できる機器
-IEEE802.11g/bに準拠した無線アクセスポイント
-本製品の[APモード]
※メディアコンバーターモード同士で、直接の通信はできません。
※使用できる暗号化機能 … WEP

□ リピーターモード　　　　　　⇒　57ページ

⇒　57ページ

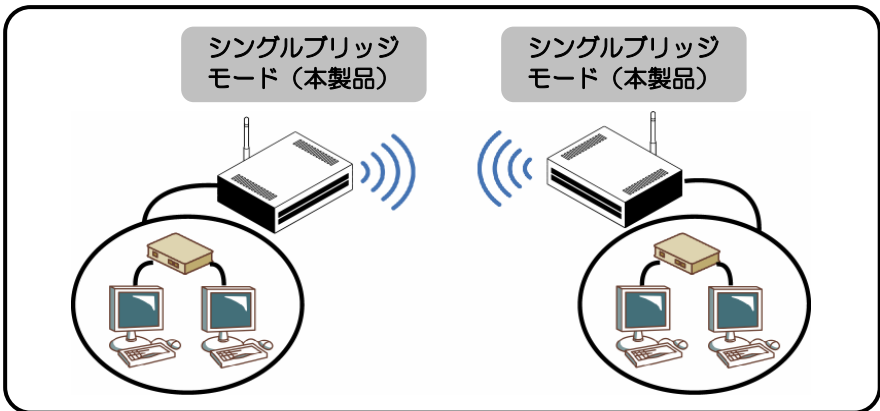
既存の無線LAN環境で電波が届かない場合や、電波が弱い場合に、無線LANアダプター搭載パソコンと本製品(APモード)の間に、本製品(リピーターモード)を置くことにより、無線の中継をすることができます。

●無線通信できる機器

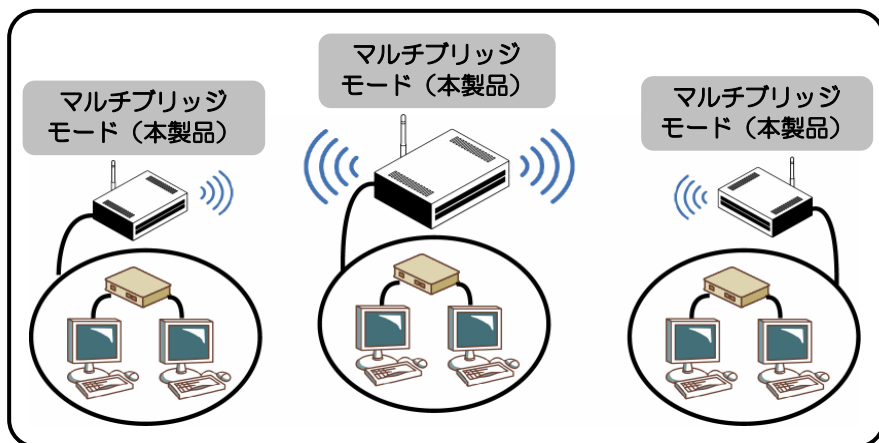
- (アクセスポイント側) 本製品の[APモード]
- (クライアント側) IEEE802.11g/b無線LANアダプターを搭載したパソコン

※使用できる暗号化機能 … WEP

□ シングルブリッジモード ⇒ 64ページ

２つのLANグループ間を無線化することができます。
ただし、無線通信相手は本製品のシングルブリッジモードである必要があります。また、本製品と無線LANアダプターを搭載したパソコンなどとの通信はできません。
３つ以上のLANグループを無線化する場合は、「マルチブリッジモード」をご利用ください。

●指定のLANケーブルを使用し、本製品のLANポートと接続できる機器
　-ハブやパソコン
　※ハブ下に取り付けられる機器は、ハブの仕様にしたがってください。
●無線通信できる機器
　-本製品の[シングルブリッジモード]
　※使用できる暗号化機能 … WEP

□ マルチブリッジモード ⇒ 70ページ

３つ以上（最大６つまで）の本製品を接続したLANグループを無線化することができます。
ただし、無線通信相手は、本製品のマルチブリッジモードである必要があります。また、本製品と無線LANアダプターを搭載したパソコンなどとの通信はできません。

●指定のLANケーブルを使用し、本製品のLANポートと接続できる機器
　-ハブやパソコン
　※ハブ下に取り付けられる機器は、ハブの仕様にしたがってください。
●無線通信できる機器
　-本製品の[マルチブリッジモード]
　※使用できる暗号化機能 … WEP

動作環境を確認する

通信できる無線LAN機器
IEEE802.11g、IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。 本製品のモードにより通信できる無線LAN機器は異なります。 ※最新の情報については弊社ホームページをご覧ください。 **[弊社製品例（最大リンク速度の理論値※）]** ●APモードで使用時 ・WN-G54シリーズのクライアント(54Mbps) ・WN-AGシリーズのクライアント(54Mbps) ・WN-B11シリーズのクライアント(11Mbps) ・WN-ABシリーズのクライアント(11Mbps) ●メディアコンバーターモードで使用時 ・WN-APGシリーズのアクセスポイント(54Mbps) ・WN-G54シリーズのアクセスポイント(54Mbps) ・WN-AGシリーズのアクセスポイント(54Mbps) ・WN-B11シリーズのアクセスポイント(11Mbps) ●リピーターモードで使用時 －アクセスポイント側 ・本製品(WN-G54/A)のAPモード －クライアント側 ・WN-G54シリーズのクライアント ・WN-AGシリーズのクライアント ・WN-B11シリーズのクライアント ・WN-ABシリーズのクライアント ●シングルブリッジモードで使用時 ・本製品(WN-G54/A)のシングルブリッジモード(54Mbps) ●マルチブリッジモードで使用時 ・本製品(WN-G54/A)のマルチブリッジモード(54Mbps)

※表記の数値は、無線LANの規格値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

弊社製 WN-A54 シリーズとは通信できません。

本製品の設定ができるパソコン	
機種	OS（日本語版に限る）
有線LANアダプターを使用できる下記の機種 ・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98(Second Edition を含む)
有線LANアダプターを使用できる下記の機種 ・Power Macintosh ・iMac、iBook、PowerBook	・Mac OS 8.6～9.2.2※ ・Mac OS X（10.1～10.2.8）

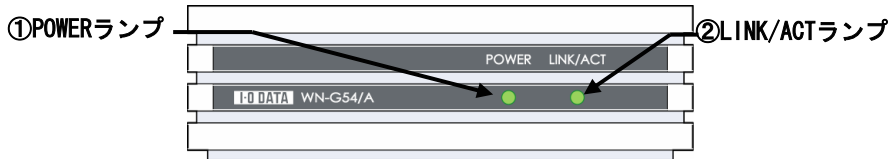
本製品の設定に必要なソフトウェア
本製品を設定するには、Internet Explorer バージョン5.0以上が必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

※ AirMacはMac OS 9.0.4以降対応です。
また、AirMac ExtremeはMac OS Xのみ対応です。
AirMac、AirMac Extremeは常に最新のバージョンをご利用ください。

■弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート/保証範囲とさせていただいております。UNIX 系 OS などでご利用いただく場合はサポート/保証対象外となります。

■Internet Explorer のバージョン情報は、Internet Explorer 画面の[ヘルプ]→[バージョン情報]で確認できます。Internet Explorer は、最新のバージョンの使用をおすすめします。

各部の名前とはたらき

▼前面

<table>
<tr><th colspan="3">前面</th></tr>
<tr><th>名称</th><th colspan="2">機能</th></tr>
<tr><td rowspan="2">①POWERランプ</td><td>緑点灯</td><td>電源ON</td></tr>
<tr><td>消灯</td><td>電源OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="3">②LINK/ACTランプ</td><td>暗い緑の点滅</td><td>LANポートに他の機器が接続されていない状態（リンク無し）</td></tr>
<tr><td>暗い緑の点灯⇔明るい緑の点滅</td><td>LANポートに他の機器が接続されている状態（リンクあり）</td></tr>
<tr><td>明るい緑の速い点滅</td><td>データを送受信中</td></tr>
</table>

▼背面

背面	
名称	機能
③DC-IN	付属のACアダプターを接続します。
④リセット スイッチ	本製品の設定を初期値に戻します。パスワードを忘れてしまった場合などに使用します。（【出荷時設定に戻す】96ページ参照）
⑤アンテナ端子	付属のアンテナを取り付けます。 ※弊社製オプションアンテナ(別売)も使用できます。 製品型番：WNOシリーズ 最新の情報は弊社ホームページ(http://www.iodata.jp/)をご覧ください。 ※指定のアンテナ以外を接続して使用すると、法律で罰せられることがあります。
⑥LANポート	LANケーブルでパソコンやハブを接続します。 ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル/LANストレートケーブルも自動判別します。 ※10BASE-Tで接続する場合は、カテゴリー３以上、100BASE-TXで接続する場合は、カテゴリー5以上のLANケーブルをご使用ください。

設定準備をする

本製品を設定するための環境を作ります。（本製品の設定画面を開けるようにします。）

①設定用パソコンをつなぐ

本製品と設定用パソコンをつなぎます。

☞22ページ

▼

②IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを変更します。

☞25ページ

▼

③設定画面を開く

本製品のWeb設定画面を開きます。

☞37ページ

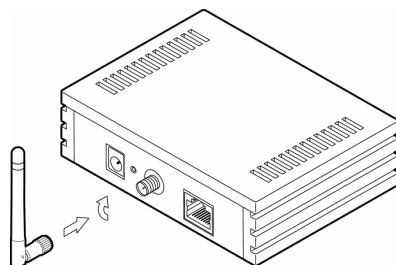
①設定用パソコンをつなぐ

本製品をパソコンに接続し、設定用パソコンの準備をします。

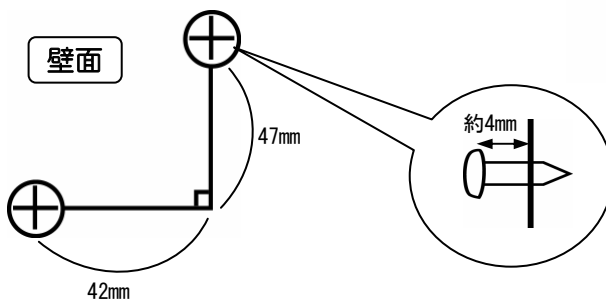
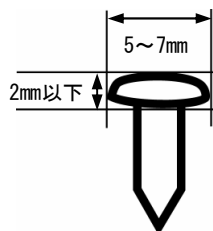
本製品を組み立てる

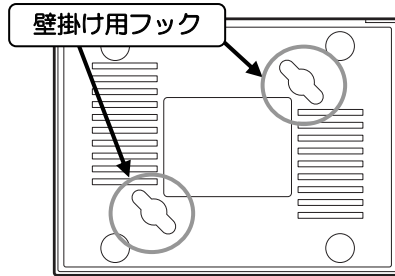
アンテナを取り付けます。

本製品背面のアンテナ端子に、添付のアンテナの根元を回して取り付けます。

※弊社製オプションアンテナ
(別売)も使用できます。
製品型番：WNOシリーズ
最新の対応情報は、弊社ホーム
ページ(http://www.iodata.jp/)
をご覧ください。

●壁に取り付ける場合

1 **本製品を設置する位置を決めます。**
ACアダプタが電源コンセントに届く範囲にしてください。

2 **壁面にネジまたはくぎを2本を取り付けます。**
ネジやくぎは、右のものをご用意ください。

3 本製品底面の壁掛け用フックを利用して、壁面のくぎまたはネジに引っ掛けます。

本製品が傾いたり、ガタつく場合は、２本のネジ位置、ネジ間隔、ネジ頭の長さを調整してください。

［壁掛用取付ネジ］を取り付ける壁の材質には、注意してください。
石膏ボードや薄いベニヤ板などでは、［壁掛用取付ネジ］がゆるんで本製品が落下する恐れがあります。

本製品をパソコンに接続する

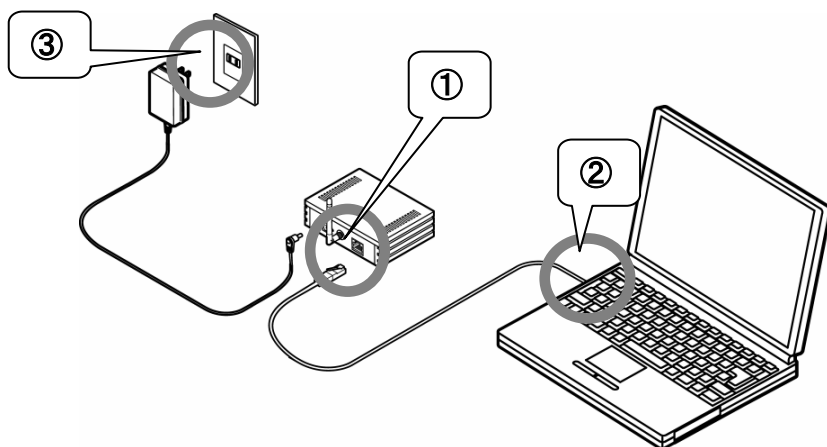
設定は、セキュリティーのため有線LAN接続で行ってください。

有線LANポートを搭載したパソコンをご用意ください。

1 添付のLANストレートケーブルとACアダプターを接続します。

①パソコンの電源を切った状態で、本製品のLANポートに添付のLANストレートケーブルをつなぎます。

②LANストレートケーブルをパソコンのLANポートにつなぎます。

③ACアダプターを本製品の[DC IN]につなぎ、コンセントに接続します。

注意！

- **ACアダプターは必ず添付のものをご使用ください。**
- **ACアダプターを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。**

以上で取り付けは終了です。【②IPアドレスを設定する】（25ページ）へお進みください。

②IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを本製品と通信できるものに設定します。

下記の該当するページをご覧ください。

～IPアドレスの設定変更～

▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XPでIPアドレスを設定する

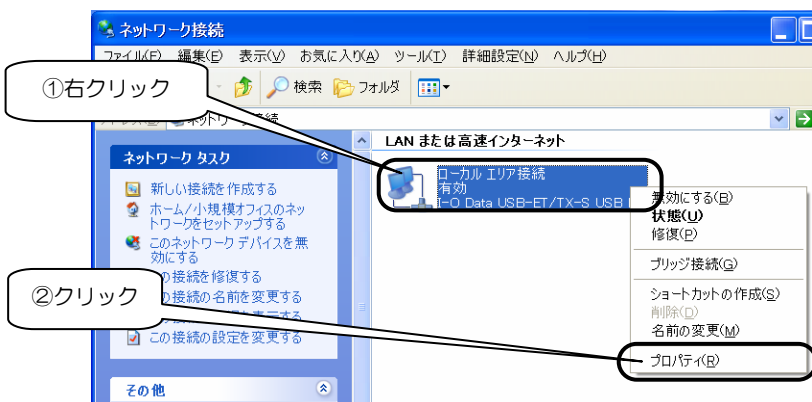
1 パソコンの電源を入れ、コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

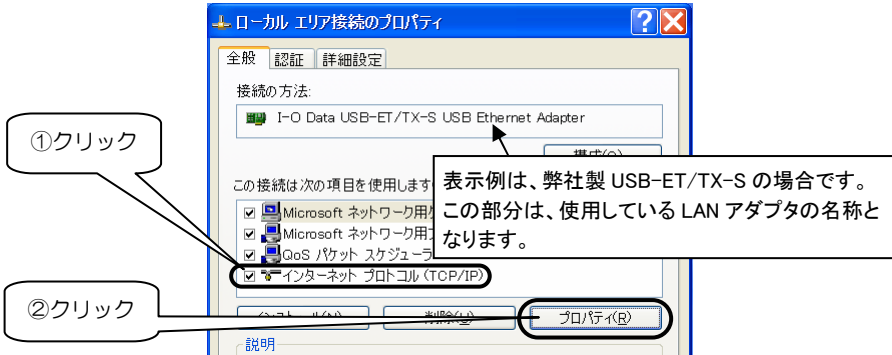
2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順**5**へお進みください。

4 [ネットワーク接続]をクリックします。

5 [ローカルエリア接続] を右クリックし、メニュー内の[プロパティ] をクリックします。

Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

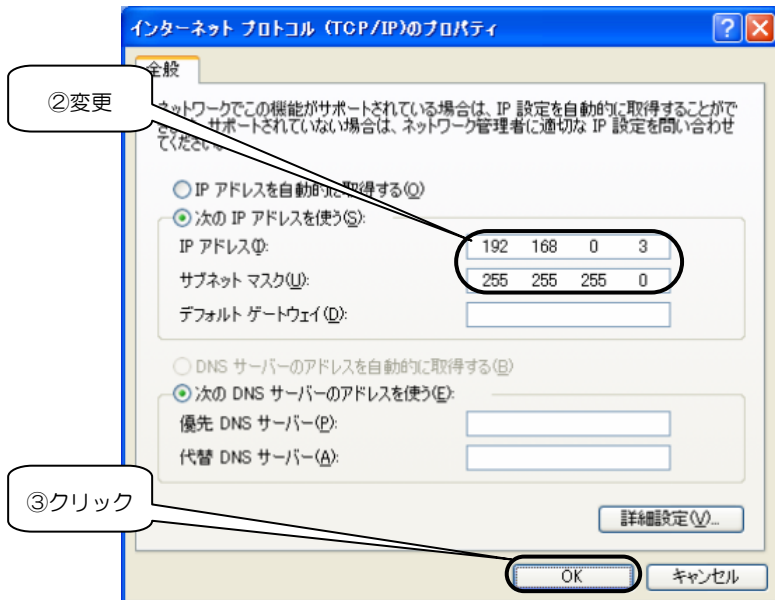
6 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

7 設定用パソコンのIPアドレス、サブネットマスクを確認・設定します。

①現在のIPアドレス、サブネットマスクを確認し、メモします。
後で、現在のIPアドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。「IPアドレスを自動的に取得する」の場合は、チェックボックスにチェックしてください。

▼確認したアドレスを記入してください。

□	IPアドレスを自動的に取得する	
□	次のIPアドレスを使う	
	IPアドレス	
	サブネットマスク	

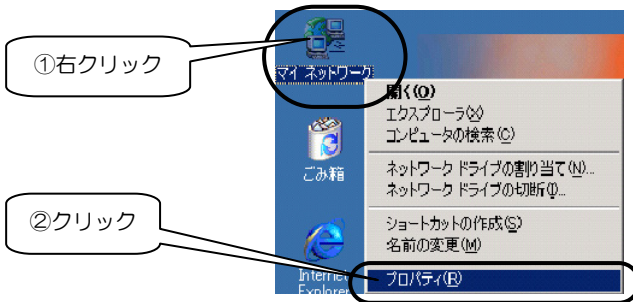
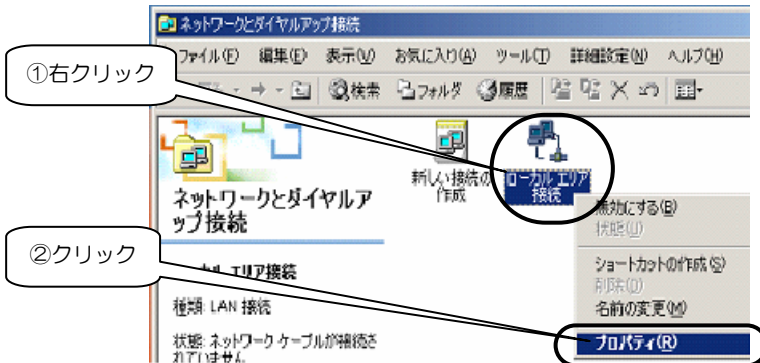
Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

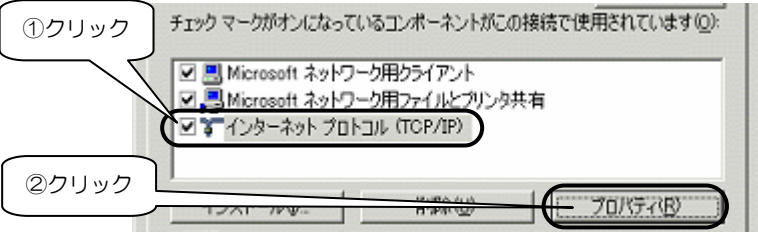
②一時的にIPアドレスを変更します。
IPアドレス：192.168.0.3
サブネットマスク：255.255.255.0
③[OK]ボタンをクリックします。

8 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

【③設定画面を開く】（37ページ）へお進みください。

Windows 2000でIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Administrators権限でWindows 2000にログオンします。

2 ［マイネットワーク］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［ローカルエリア接続］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

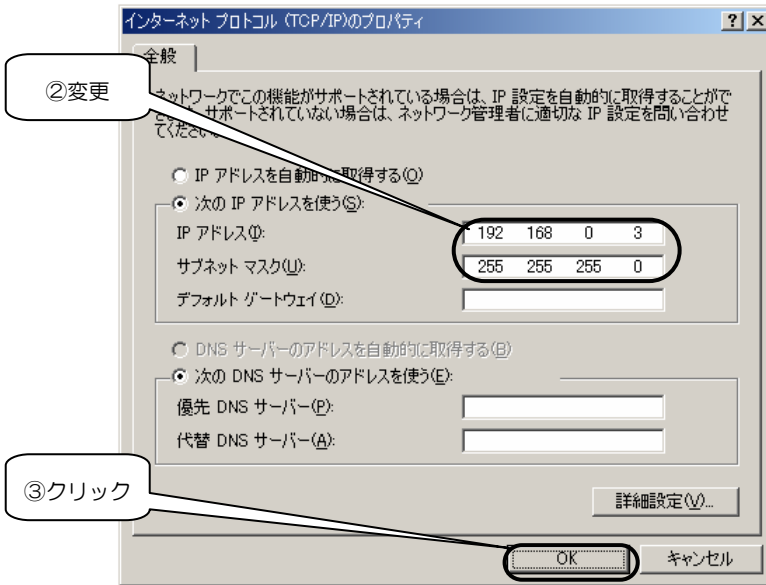
4 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

5 設定用パソコンのIPアドレス、サブネットマスクを確認・設定します。

①現在のIPアドレス、サブネットマスクを確認し、メモします。
後で、現在のIPアドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。「IPアドレスを自動的に取得する」の場合は、チェックボックスにチェックしてください。

▼確認したアドレスを記入してください。

□	IPアドレスを自動的に取得する	
□	次のIPアドレスを使う	
	IPアドレス	
	サブネットマスク	

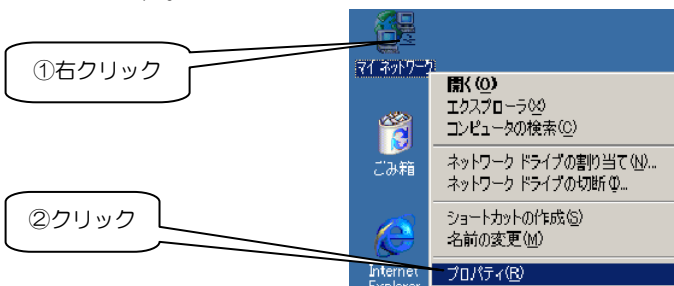
②一時的にIPアドレスを変更します。
IPアドレス：192.168.0.3
サブネットマスク：255.255.255.0
③[OK]ボタンをクリックします。

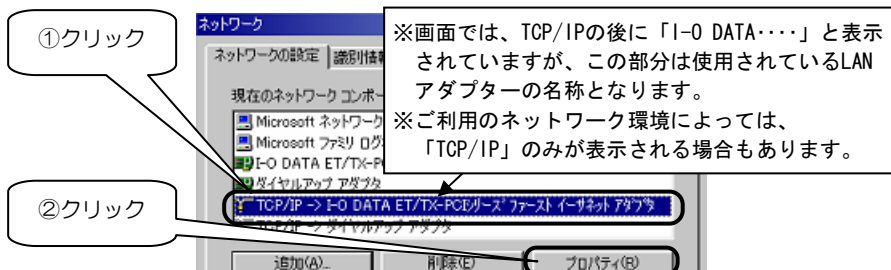
Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

6 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

【③設定画面を開く】（37ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

2 ［マイネットワーク］（または［ネットワークコンピュータ］）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［TCP/IP］（あるいは［TCP/IP -> xxxxxxx］）をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

※LANアダプターが複数ある場合、[TCP/IP－>xxxxxxxx]と表示されます。

4 設定用パソコンのIPアドレス、サブネットマスクを確認・設定します。

①現在のIPアドレス、サブネットマスクを確認し、メモします。
後で、現在のIPアドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。「IPアドレスを自動的に取得する」の場合は、チェックボックスにチェックしてください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する（つづき）

▼確認したアドレスを記入してください。

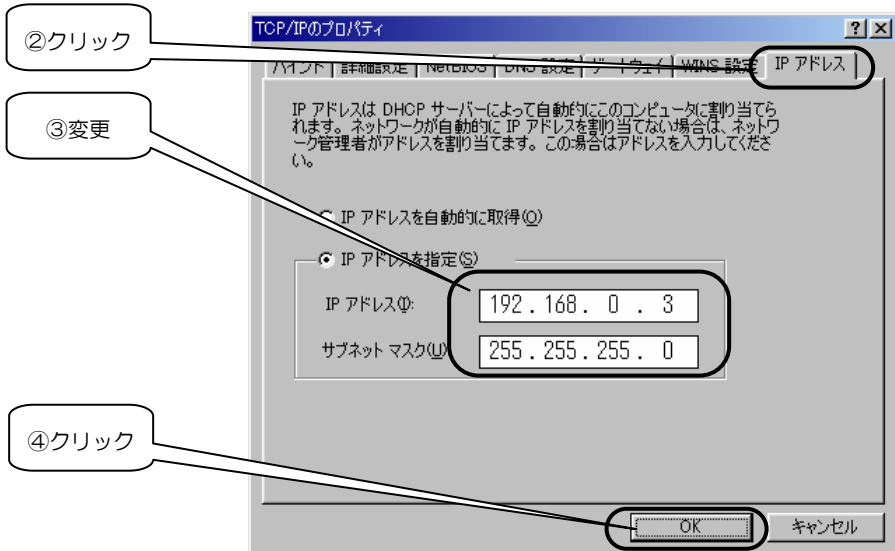
□	IPアドレスを自動的に取得	
□	IPアドレスを指定	
	IPアドレス	
	サブネットマスク	

②[IPアドレス]タブをクリックします。

③一時的にIPアドレスを変更します。

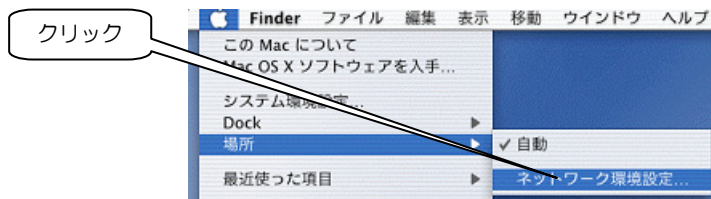
IPアドレス：192.168.0.3

サブネットマスク：255.255.255.0

④[OK]ボタンをクリックします。

5 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

【③設定画面を開く】（37ページ）へお進みください。

Mac OS XでIPアドレスを設定する

1 [場所]→[ネットワーク環境設定]をクリックします。

2 設定用パソコンのIPアドレス、サブネットマスクを確認・設定します。

①[表示:]から[内蔵Ethernet]または[Ethernet]を選択します。

②現在の表示、IPアドレス、サブネットマスクを確認しメモします。後で、現在のIPアドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。「DHCPサーバを参照」の場合は、チェックボックスにチェックしてください。

▼確認したアドレスを記入してください。

□	DHCPサーバを参照	
□	次のIPアドレスを使う	
	IPアドレス	
	サブネットマスク	

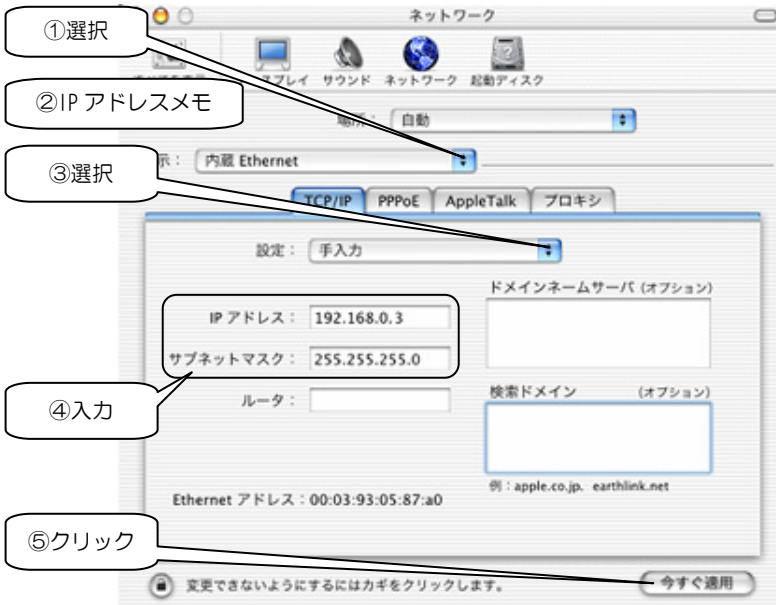
③[TCP/IP]タブで[設定:]から[手入力]を選択します。

④一時的にIPアドレスを変更します。

IPアドレス：192.168.0.3

サブネットマスク：255.255.255.0

⑤[今すぐ適用]ボタンをクリックします。

Mac OS XでIPアドレスを設定する（つづき）

3 画面を閉じて、いったんパソコンを再起動します。

【③設定画面を開く】（37ページ）へお進みください。

Mac OS(Classic)でIPアドレスを設定する

1 ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

2 設定用パソコンのIPアドレスなどを確認・設定します。

①現在の経由先、IPアドレス、サブネットマスクを確認しメモします。後で、現在のIPアドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。「DHCPサーバを参照」の場合は、チェックボックスにチェックしてください。

▼確認したアドレスを記入してください。

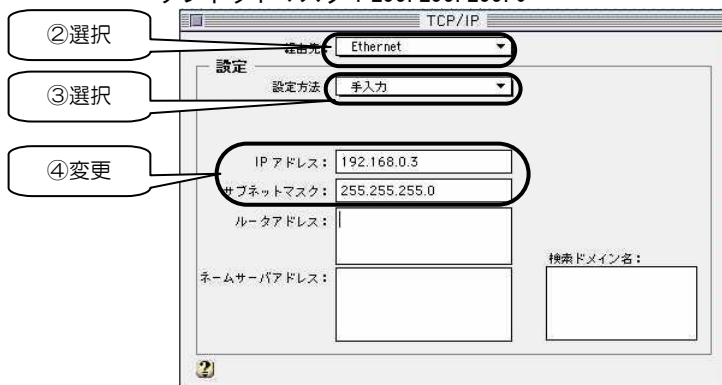
□	DHCPサーバを参照	
□	次のIPアドレスを使う	
	IPアドレス	
	サブネットマスク	

②[経由先]で[Ethernet]を選択します。

③[設定方法]で[手入力]を選択します。

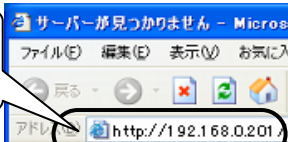
④一時的にIPアドレスを変更します。

IPアドレス：192.168.0.3

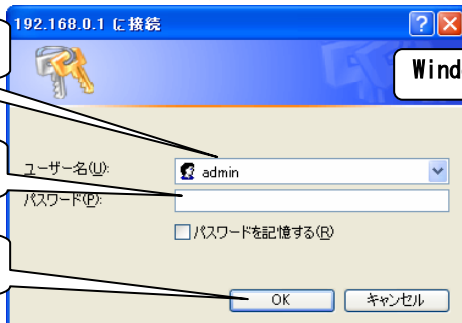
サブネットマスク：255.255.255.0

3 画面を閉じて、いったんパソコンを再起動します。

【③設定画面を開く】（37ページ）へお進みください。

③設定画面を開く

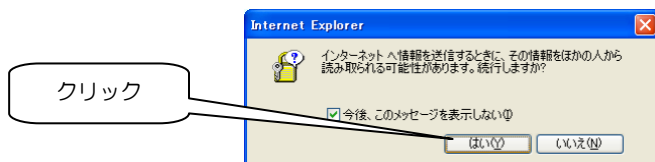
1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.201/」

注意！

上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。本製品がパソコンに LAN 接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、下記のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。
ユーザー名： admin
パスワード： （入力なし）

上記の画面が表示されない場合は…
⇒【困った時には】内の110ページをご覧ください。

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。出荷時のパスワードは、後で変更することをおすすめします。変更方法の詳細は、93ページを参照してください。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

▼設定画面

【モード別の設定をする】（39ページ）へお進みください。

モード別の設定をする

モードにより設定方法が異なります。用途に合ったモードを選択し、設定してください。各モードの説明については、【モードについて】(12ページ)をご覧ください。

APモードで使う

本製品をAPモードで使用する場合の設定方法を説明します。

☞ 40ページ

メディアコンバーターモードで使う

本製品をメディアコンバーターモードで使用する場合の設定方法を説明します。

☞ 51ページ

リピーターモードで使う

本製品をリピーターモードで使用する場合の設定方法を説明します。

☞ 57ページ

シングルブリッジモードで使う

本製品をシングルブリッジモードで使用する場合の設定方法を説明します。

☞ 64ページ

マルチブリッジモードで使う

本製品をマルチブリッジモードで使用する場合の設定方法を説明します。

☞ 70ページ

APモードで使う

APモードの場合の設定方法を説明します。（無線設定ウィザードを使用して、設定します。）

①設定内容を記入してください

設定をスムーズに進めるために、ここであらかじめ設定内容を決めて、メモしてください。

1 本製品のSSIDを決めます。

半角英数32文字まで（大/小文字の区別あり）で、お好きな名前を付けてください。（初期値：default）
※初期値のままでもご利用いただけますが、安全のため、変更することをおすすめします。

▼確認したSSIDを記入してください。

SSID	

●SSIDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SSIDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。無線LA機器によっては、SSIDがESSIDと記載されている場合もあります。

2 本製品のチャンネルを決めます。

1～13 chで選択できます。（初期値：6ch）
チャンネルの選び方については、【●2.4GHz帯（IEEE802.11g/b）の無線で選択するチャンネル】(76ページ)をご覧ください。

▼決めたチャンネルを記入してください。

チャンネル	

①設定内容を記入してください（つづき）

3 暗号の種類を決めます。

▼設定する暗号の種類にチェックを付けてください。

□	[暗号化無し]…暗号化の設定をしません。 ※安全にご使用いただくために、暗号化機能を使用することを強くおすすめします。
□	[WEP]…WEPキーを利用した暗号化を行います。 ※無線LANアダプターがWEPに対応している必要があります。
□	[WPA-PSK]…Pre Shared Keyを認証に利用した高度な暗号化を行います。 ※無線LANアダプターがWPA-PSKに対応している必要があります。
□	[WPA]…Radiusサーバーを認証に利用した高度な暗号化を行います。 ※下の参考をご覧ください。
□	[802.1x/EAP]…Radiusサーバーを認証に利用した暗号化を行います。 ※下の参考をご覧ください。

●暗号の種類の選び方

本製品と無線LANアダプターの暗号化の種類を一致させる必要があります。
本製品と通信する無線LANアダプターが対応している暗号の種類を確認してください。（詳しくは、無線LANアダプターの取扱説明書をご覧ください。）
無線LANアダプターが[WPA-PSK]に対応している場合は、WEPより高度な暗号化である[WPA-PSK]に設定することをおすすめします。無線LANアダプターが[WEP]のみに対応の場合は、 [WEP]に設定してください。

●WPAとは

WPAとは、「Wi-Fi Protected Access」の略で脆弱性が指摘されるWEPに代わる新しいセキュリティー規格です。TKIP/AESという暗号化方式を利用しています。TKIPとは、（Temporal Key Integrity Protocol）という暗号化方式で、一定時間ごとに鍵を更新し、1つの暗号鍵を長い期間、共有して使うWEPと比べてより安全な通信が可能となりました。

●[WPA]および[802.1x/EAP]について

これらは、Radius認証サーバーを使用した高度な認証方式で、企業など特に高度なセキュリティーが必要な場合に使用します。この機能の運用には別途Radius認証サーバーと電子証明書発行サーバーの構築が必要になります。これらの仕組みを理解した上での運用が必要になりますので、通常は[WEP]や、[WPA-PSK]を使用してのセキュリティー強化を行ってください。

①設定内容を記入してください（つづき）

4 選択した暗号の種類によって、暗号キーなどを決めます。

WEP以外を選択した場合は、次ページ以降をご覧ください。

手順 3 で【WEP】を選択した場合の設定内容

キーの長さ	[64(40) ビット] [128(104) ビット] [152(128) ビット]
キーの種類	[16進数] [ASCII文字]
認証方式	[Open System] [Shared Key]
デフォルトキー（キー1）	

※キー２～４は通常使用しません。（設定の必要はありません。）

項目	説明
キーの長さ	64(40)ビット：送受信するデータを64ビット暗号化します。 128(104)ビット：送受信するデータを128ビット暗号化します。 152(128)ビット：送受信するデータを152ビット暗号化します。 ※152ビット暗号化はIEEE802.11規格で定義されている機能ではなく、本製品独自の規格です。通信相手の無線LANアダプターも対応している必要があります。
キーの種類	16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。 ASCII　：半角英数字を入力します。
暗号化認証方式	Open System：開放型認証方式 Shared Key：共有型認証方式
デフォルトキー	[キーの長さ][キーの種類]を確認し、下記の文字数でデフォルトキーを決めてください。 （下表参照） 無線LANアダプターなど通信相手側も同じ暗号キーの種類で設定する必要があります。

	ASCII	16進数
64(40)ビット	5文字	10文字
128(104)ビット	13文字	26文字
152(128)ビット	16文字	32文字

設定を決定したら、【②APモードの設定をする】(45ページ)へお進みください。

①設定内容を記入してください（つづき）

手順 3 で【WPA-PSK】を選択した場合の設定内容

TKIP/AES	[TKIP]　　[AES]
Pre Shared Key	

項目	説明
TKIP/AES	無線LANアダプターの対応をご確認の上、選択してください。 TKIP：送受信するデータをTKIP方式で暗号化します。 AES：送受信するデータをAES方式で暗号化します。（TKIPより高度な暗号化です。）
Pre Shared Key	Pre Shared Keyを8～63文字の半角英数字で入力します。

設定を決定したら、【②APモードの設定をする】(45ページ)へお進みください。

手順 3 で【WPA】を選択した場合の設定内容

TKIP/AES	[TKIP]　　[AES]
認証サーバー	
認証ポート番号	
Shared Secret	
ライフタイム	[1日]　[8時間]　[1時間] [30分]　[15分]　[5分]

項目	説明
TKIP/AES	無線LANアダプターの対応をご確認の上、選択してください。 TKIP：送受信するデータをTKIP方式で暗号化します。 AES：送受信するデータをAES方式で暗号化します。（TKIPより高度な暗号化です。）
認証サーバー	Radius認証サーバーのIPアドレスを入力します。
認証ポート番号	Radius認証サーバーのポート番号を入力します。
Shared Secret	Radius認証サーバーで入力したShared Secretを入力します。
ライフタイム	認証の有効な期間を選択します。

設定を決定したら、【②APモードの設定をする】(45ページ)へお進みください。

①設定内容を記入してください（つづき）

手順 *3* で【802.1x/EAP】を選択した場合の設定内容

認証サーバー	
認証ポート番号	
Shared Secret	
ライフタイム	[1日]　[8時間]　[1時間] [30分]　[15分]　[5分]

項目	説明
認証サーバー	Radius認証サーバーのIPアドレスを入力します。
認証ポート番号	Radius認証サーバーのポート番号を入力します。
Shared Secret	Radius認証サーバーで入力したShared Secretを入力します。
ライフタイム	認証の有効な期間を選択します。

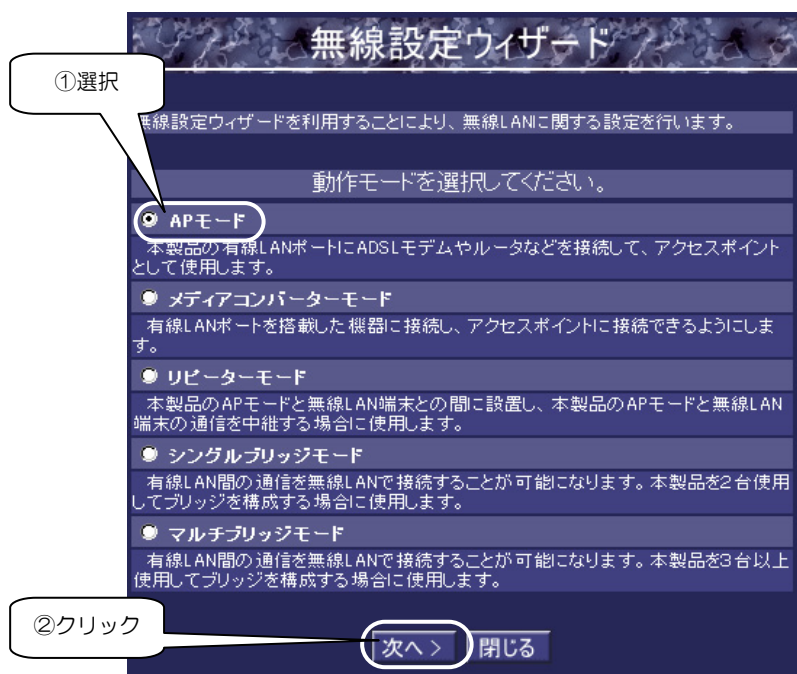
設定を決定したら、【②APモードの設定をする】(45ページ)へお進みください。

②APモードの設定をする

1 **37ページの【③設定画面を開く】で開いた設定画面にて、［無線設定ウィザード］ボタンをクリックします。**

無線設定ウィザード

無線設定ウィザードが起動します。

2 **[APモード]を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。**

②APモードの設定をする（つづき）

3 無線の設定をします。

①【①設定内容を記入してください】（40ページ）で記入した[SSID]、[チャンネル]を設定し、残りの項目も設定します。

SSID通知	有効：SSIDの存在を本製品と通信する無線LANアダプターに通知します。 無効：SSIDの存在を本製品と通信する無線LANアダプターに通知しなくなります。無線LANアダプター側でSSIDが検出されなくなり、SSIDをANYとする接続を拒否できます。
SuperGモード	有効：従来のIEEE802.11g無線LANを高速化します。 ※SuperGモードを使用する場合は、無線LANアダプターもSuperGモードに対応している必要があります。 無効：SuperGモードを使用しません。

②【①設定内容を記入してください】で決めた[暗号化の種類]を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

②APモードの設定をする（つづき）

4 暗号の設定をします。

【①設定内容を記入してください】で選択した暗号化の種類に応じて設定してください。

[暗号化無し]を選択した場合は、手順*5*へお進みください。

⇒【WEP】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】(40ページ)で決めた[キーの長さ]、[キーの種類]、[認証方式]を設定します。

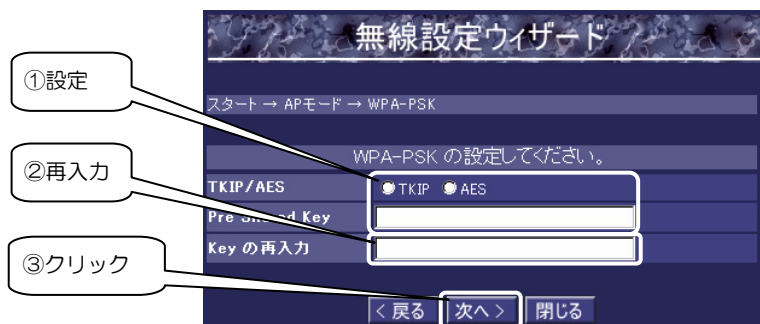
②[1]を選択し、【①設定内容を記入してください】(40ページ)で決めた[デフォルトキー]を[1]の横の枠に入力します。

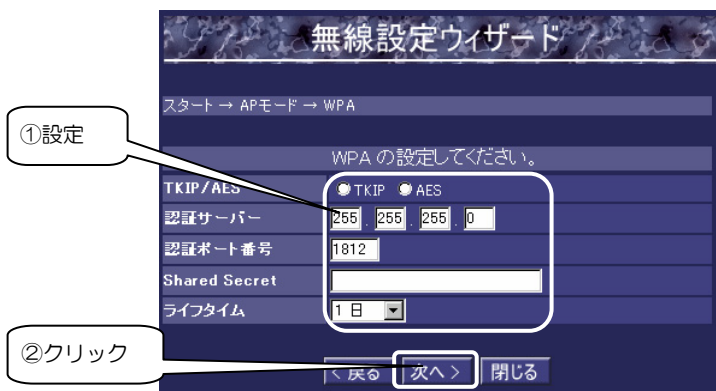
③[次へ]ボタンをクリックします。

手順*5*（50ページ）へお進みください。

②APモードの設定をする（つづき）

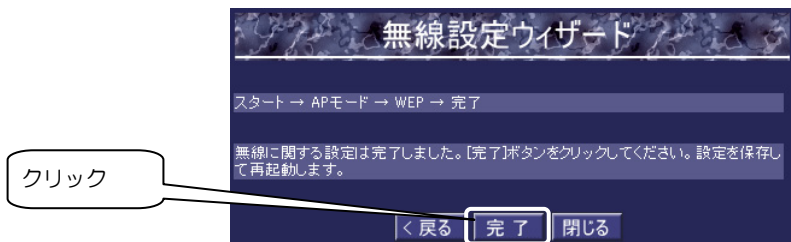
⇒【WPA-PSK】を選択した場合

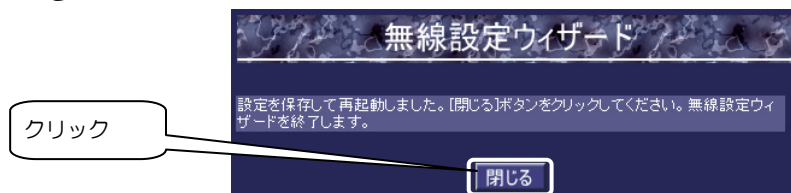
①【①設定内容を記入してください】(40ページ)で決めた値を設定します。
②確認のため、[Keyの再入力]にPre Shared Keyを再入力します。
③[次へ]ボタンをクリックします。
手順*5*（50ページ）へお進みください。

⇒【WPA】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】(40ページ)で決めた値を設定します。
②[次へ]ボタンをクリックします。
手順*5*（50ページ）へお進みください。

②APモードの設定をする（つづき）

⇒【802.1x/EAP】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】(40ページ)で決めた値を設定します。
②[次へ]ボタンをクリックします。
手順*5*へお進みください。

②APモードの設定をする（つづき）

5 [完了]ボタンをクリックします。

6 [閉じる]ボタンをクリックします。

7 本製品と通信する無線LANアダプターの設定を、本製品の設定にあわせます。

設定内容は、【①設定内容を記入してください】(40ページ)で決めた「SSID」「チャンネル」「暗号化機能」です。設定方法は無線LANアダプターの取扱説明書をご覧ください。

> **これで無線LAN通信ができる状態になりました。**
> **設定が完了したら、パソコンのIPアドレスを元に戻してください。**
> **（【②IPアドレスを設定する】(25ページ)の手順をご参考ください。）**

困った時には

設定したのに無線通信できない場合は…
⇒【困った時には】（119ページ）をご覧ください。

メディアコンバーターモードで使う

メディアコンバーターモードの場合の設定方法を説明します。（無線設定ウィザードを使用して、設定します。）

①設定内容を記入してください

設定をスムーズに進めるために、ここであらかじめ設定内容をメモしてください。

1 通信相手のSSIDを確認します。

通信相手のアクセスポイントに設定されているSSIDをご確認ください。
半角英数32文字まで（大/小文字の区別あり）となります。
（初期値：default）

▼確認したSSIDを記入してください。

SSID	

●SSIDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SSIDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。無線LA機器によっては、SSIDがESSIDと記載されている場合もあります。

2 暗号の種類を確認します。

通信相手のアクセスポイントの設定と合わせてください。

▼設定する暗号の種類にチェックを付けてください。

□	[暗号化無し]…暗号化の設定をしません。 ※安全にご使用いただくために、暗号化機能を使用することを強くおすすめします。
□	[WEP]…WEPキーを利用した暗号化を行います。 ※無線通信するアクセスポイントがWEPに対応している必要があります。

①設定内容を記入してください（つづき）

3 [WEP]を選択した場合は、暗号キーなどを決めます。

通信相手のアクセスポイントの設定と合わせてください。

手順 3 で【WEP】を選択した場合の設定内容

キーの長さ	[64(40) ビット]　[128(104) ビット] [152(128) ビット]
キーの種類	[16進数]　[ASCII文字]
認証方式	[Open System]　[Shared Key]
デフォルトキー （キー1）	

※キー２～４は通常使用しません。（設定の必要はありません。）

項目	説明
キーの長さ	64(40)ビット：送受信するデータを64ビット暗号化します。 128(104)ビット：送受信するデータを128ビット暗号化します。 152(128)ビット：送受信するデータを152ビット暗号化します。 ※152ビット暗号化はIEEE802.11規格で定義されている機能ではなく、本製品独自の規格です。通信相手の無線LANアダプターも対応している必要があります。
キーの種類	16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。 ASCII　：半角英数字を入力します。
暗号化認証方式	Open System：開放型認証方式 Shared Key：共有型認証方式
デフォルトキー	[キーの長さ][キーの種類]を確認し、下記の文字数でデフォルトキーを決めてください。 （下表参照） 無線LANアダプターなど通信相手側も同じ暗号キーの種類で設定する必要があります。

	ASCII	16進数
64(40)ビット	5文字	10文字
128(104)ビット	13文字	26文字
152(128)ビット	16文字	32文字

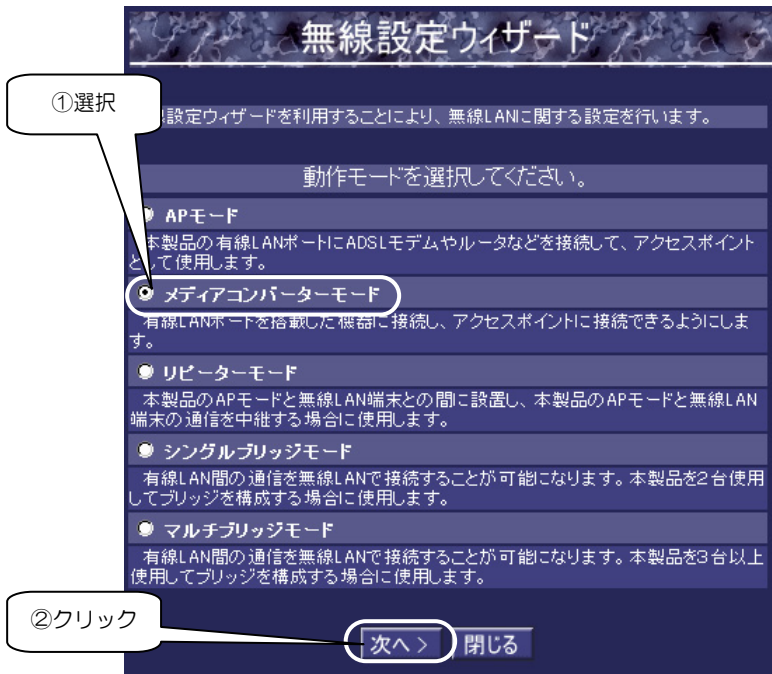
設定を決定したら、53ページへお進みください。

②メディアコンバーターモードの設定をする

1 **37ページの【③設定画面を開く】で開いた設定画面にて、［無線設定ウィザード］ボタンをクリックします。**

無線設定ウィザード

無線設定ウィザードが起動します。

2 **［メディアコンバーターモード］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。**

②メディアコンバーターモードの設定をする（つづき）

3 無線の設定をします。

①【①設定内容を記入してください】(51ページ)で記入した[SSID]を設定し、残りの項目も設定します。

SuperGモード	有効：従来のIEEE802.11g無線LANを高速化します。 ※SuperGモードを使用する場合は、接続先のアクセスポイントもSuperGモードに対応している必要があります。 無効：SuperGモードの機能を使用しません。

②【①設定内容を記入してください】(51ページ)で決めた[暗号化の種類]を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

[SSID]の[検索]ボタンをクリックすると、SSIDを通知しているアクセスポイントを自動検索します。この画面で表示されたアクセスポイントを選択し、[選択]ボタンをクリックしてから[閉じる]ボタンで画面を閉じると、SSIDなどが自動で入力されます。

▼画面例

アクセスポイントの検索

	BSSID	SSID	暗号化	ch
○	00-A0-B0-00-00-01	wng54a_1	Yes	1
○	00-A0-B0-00-00-02	wng54a_2	Yes	6
○	00-A0-B0-00-00-03	wng54a_3	Yes	11

選　択　閉じる

※検索に時間がかかる場合は、SSIDを手入力してください。

②メディアコンバーターモードの設定をする（つづき）

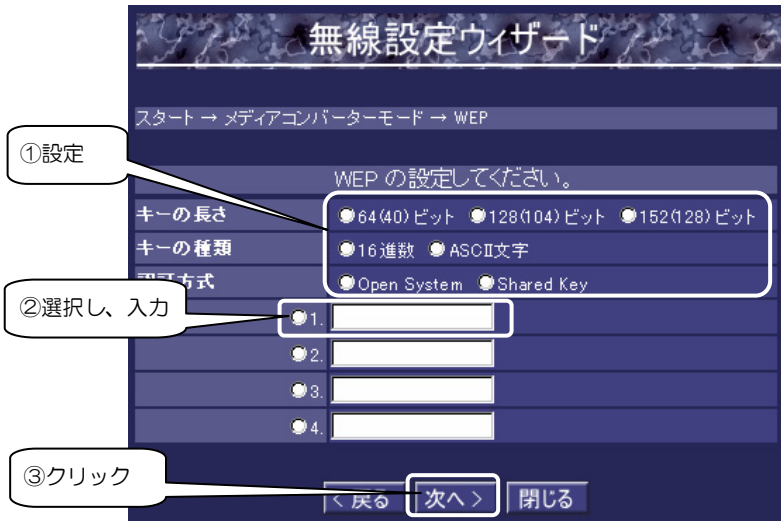
4 暗号の設定をします。

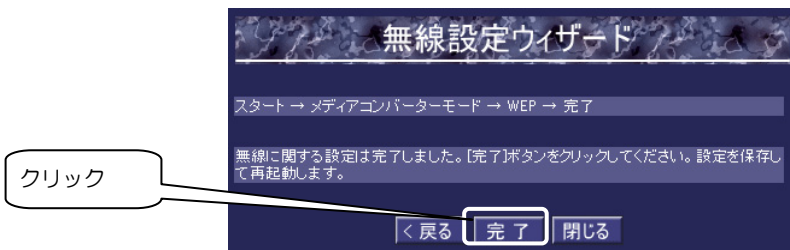
【①設定内容を記入してください】(51ページ)で選択した暗号化の種類に応じて設定してください。

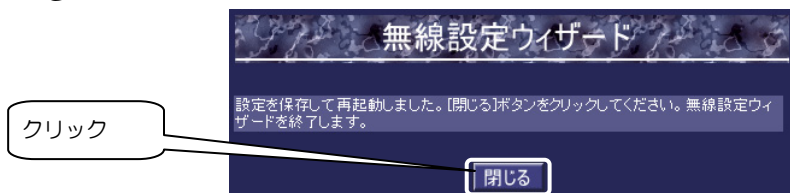
［暗号化無し］を選択した場合は、手順5へお進みください。

⇒【WEP】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】(51ページ)で決めた[キーの長さ]、[キーの種類]、[認証方式]を設定します。

②[1]を選択し、【①設定内容を記入してください】(51ページ)で決めた[デフォルトキー]を[1]の横の枠に入力します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

②メディアコンバーターモードの設定をする（つづき）

5 [完了]ボタンをクリックします。

6 [閉じる]ボタンをクリックします。

7 パソコンのIPアドレスを設定前にメモした値に戻します。

【②IPアドレスを設定する】(25ページ)の手順をご参考ください。

8 設定用パソコンから本製品を通して他の無線LANアダプター搭載パソコンなどに接続できることを確認します。

通信先でインターネットに接続可能※な場合は、設定用パソコンから無線でインターネットに接続できることをご確認ください。
または、他のパソコンなどにアクセスできることをご確認ください。
※無線アクセスポイントにブロードバンドルーターが接続されているか、無線アクセスポイント機能付きのブロードバンドルーターを使用する必要があります。

これで無線LAN通信ができる状態になりました。本製品のLANポートと、LANポートを持つ他の機器を、LANケーブルで接続します。
他の機器とは、パソコン、ゲーム機、LANポートを持つDVD・HDレコーダーなどのことです。

設定したのに無線通信できない場合は…
⇒【困った時には】（119ページ）をご覧ください。

リピーターモードで使う

リピーターモードの場合の設定方法を説明します。（無線設定ウィザードを使用して、設定します。）

①設定内容を記入してください

設定をスムーズに進めるために、ここであらかじめ設定内容をメモしてください。

1 通信相手のSSIDを確認します。

通信相手のアクセスポイントに設定されているSSIDをご確認ください。
半角英数32文字まで（大/小文字の区別あり）となります。
（初期値：default）

▼確認したSSIDを記入してください。

SS ID	

●SSIDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SSIDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SSIDがESSIDと記載されている場合もあります。

2 通信相手のチャンネルを確認します。

通信相手のアクセスポイントに設定されているSSIDをご確認ください。
1～13 chで選択できます。

▼確認したチャンネルを記入してください。

チャンネル	

①設定内容を記入してください（つづき）

3 暗号の種類を確認します。

通信相手のアクセスポイントの設定と合わせてください。

▼設定する暗号の種類にチェックを付けてください。

□	[暗号化無し]…暗号化の設定をしません。 ※安全にご使用いただくために、暗号化機能を使用することを強くおすすめします。
□	[WEP]…WEPキーを利用した暗号化を行います。 ※通信相手がWEPに対応している必要があります。

4 [WEP]を選択した場合は、暗号キーなどを決めます。

通信相手のアクセスポイントの設定と合わせてください。

手順 3 で【WEP】を選択した場合の設定内容

キーの長さ		[64(40) ビット] [128(104) ビット] [152(128) ビット]
キーの種類		[16進数] [ASCII文字]
認証方式		[Open System] [Shared Key]
キー	キー1	
	キー2	
	キー3	
	キー4	

※キー２～４は通常使用しません。

①設定内容を記入してください（つづき）

<table>
<tr><th>項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>キーの長さ</td><td>64(40)ビット：送受信するデータを64ビット暗号化します。
128(104)ビット：送受信するデータを128ビット暗号化します。
152(128)ビット：送受信するデータを152ビット暗号化します。
※152ビット暗号化はIEEE802.11規格で定義されている機能ではなく、本製品独自の規格です。通信相手の無線LANアダプターも対応している必要があります。</td></tr>
<tr><td>キーの種類</td><td>16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。
ASCII　：半角英数字を入力します。
<table><tr><td></td><td>ASCII</td><td>16進数</td></tr><tr><td>64bit</td><td>5文字</td><td>10文字</td></tr><tr><td>128bit</td><td>13文字</td><td>26文字</td></tr><tr><td>152bit</td><td>16文字</td><td>32文字</td></tr></table>通信相手側と同じ暗号キーを入力する必要があります。</td></tr>
<tr><td>認証方式</td><td>Open System：開放型認証方式
Shared Key：共有型認証方式</td></tr>
</table>

設定を決定したら、60ページへお進みください。

②リピーターモードの設定をする

1 **37ページの【③設定画面を開く】で開いた設定画面にて、［無線設定ウィザード］ボタンをクリックします。**

無線設定ウィザード

無線設定ウィザードが起動します。

2 **［リピーターモード］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。**

②リピーターモードの設定をする（つづき）

3 無線の設定をします。

①【①設定内容を記入してください】(57ページ)で記入した[SSID]、[チャンネル]を設定します。

②【①設定内容を記入してください】(57ページ)で確認した[暗号化の種類]を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

[SSID]の[検索]ボタンをクリックすると、SSIDを通知しているアクセスポイントを自動検索します。この画面で表示されたアクセスポイントを選択し、[選択]ボタンをクリックしてから[閉じる]ボタンで画面を閉じると、SSIDなどが自動で入力されます。

▼画面例

※検索に時間がかかる場合は、SSIDを手入力してください。

②リピーターモードの設定をする（つづき）

4 暗号の設定をします。

【①設定内容を記入してください】(57ページ)で選択した暗号化の種類に応じて設定してください。

[暗号化無し]を選択した場合は、手順5へお進みください。

⇒【WEP】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】(57ページ)で決めた値を設定します。

②デフォルトキーを選択します。（通常は１を選択します。）

③[次へ]ボタンをクリックします。

②リピーターモードの設定をする（つづき）

5 [完了]ボタンをクリックします。

6 [閉じる]ボタンをクリックします。

これで無線LAN通信ができる状態になりました。
設定が完了したら、パソコンのIPアドレスを元に戻してください。
（【②IPアドレスを設定する】(25ページ)の手順をご参考ください。）

無線通信できていない場合は…
⇒【困った時には】（119ページ）をご覧ください。

シングルブリッジモードで使う

シングルブリッジモードの場合の設定方法を説明します。（無線設定ウィザードを使用して、設定します。）このモードを利用するためには、別途、通信相手側のWN-G54/Aをご用意ください。（通信相手のWN-G54/Aも、下記と同じ設定をする必要があります。）

①設定内容を記入してください

設定をスムーズに進めるために、ここであらかじめ設定内容をメモしてください。

1 通信相手となるWN-G54/AのMACアドレスを確認します。

通信相手のWN-G54/AのMACアドレスをご確認ください。
WN-G54/AのMACアドレス(“00A0B0”で始まる12桁の英数字)は製品下面に貼付してあります。

▼確認したMACアドレスを記入してください。

MACアドレス	

2 チャンネル決めます。

1～13 chで選択できます。（初期値：6ch）
通信相手のWN-G54/Aの設定と合わせてください。
詳しくは、【●2.4GHz帯（IEEE802.11g/b）の無線で選択するチャンネル】(76ページ)をご覧ください。

▼決めたチャンネルを記入してください。

チャンネル	

3 暗号の種類を決めます。

通信相手のWN-G54/Aの設定と合わせてください。

▼設定する暗号の種類にチェックを付けてください。

□	**[暗号化無し]…暗号化の設定をしません。** ※安全にご使用いただくために、暗号化機能を使用することを強くおすすめします。
□	**[WEP]…WEPキーを利用した暗号化を行います。**

①設定内容を記入してください（つづき）

4 [WEP]を選択した場合は、暗号キーなどを決めます。

通信相手のアクセスポイントの設定と合わせてください。

手順 3 で【WEP】を選択した場合の設定内容

キーの長さ	[64(40) ビット]　[128(104) ビット] [152(128) ビット]
キーの種類	[16進数]　[ASCII文字]
認証方式	[Open System]　[Shared Key]
デフォルトキー （キー1）	

※キー２～４は通常使用しません。（設定の必要はありません。）

項目	説明
キーの長さ	64(40)ビット：送受信するデータを64ビット暗号化します。 128(104)ビット：送受信するデータを128ビット暗号化します。 152(128)ビット：送受信するデータを152ビット暗号化します。 ※152ビット暗号化はIEEE802.11規格で定義されている機能ではなく、本製品独自の規格です。
キーの種類	16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。 ASCII　：半角英数字を入力します。
暗号化認証方式	Open System：開放型認証方式 Shared Key：共有型認証方式
デフォルトキー	[キーの長さ][キーの種類]を確認し、下記の文字数でデフォルトキーを決めてください。 （下表参照） 無線LANアダプターなど通信相手側も同じ暗号キーの種類で設定する必要があります。

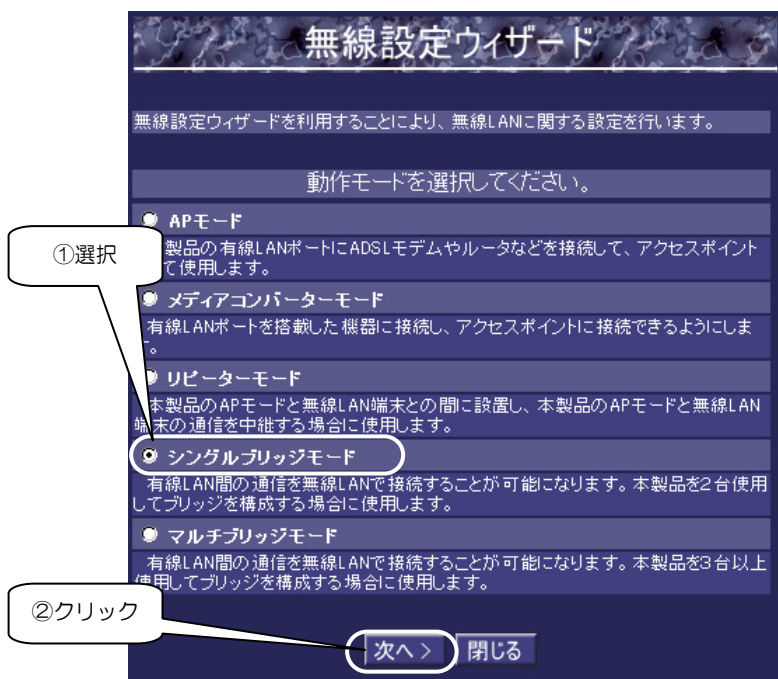
	ASCII	16進数
64(40)ビット	5文字	10文字
128(104)ビット	13文字	26文字
152(128)ビット	16文字	32文字

設定を決定したら、66ページへお進みください。

②シングルブリッジモードの設定をする

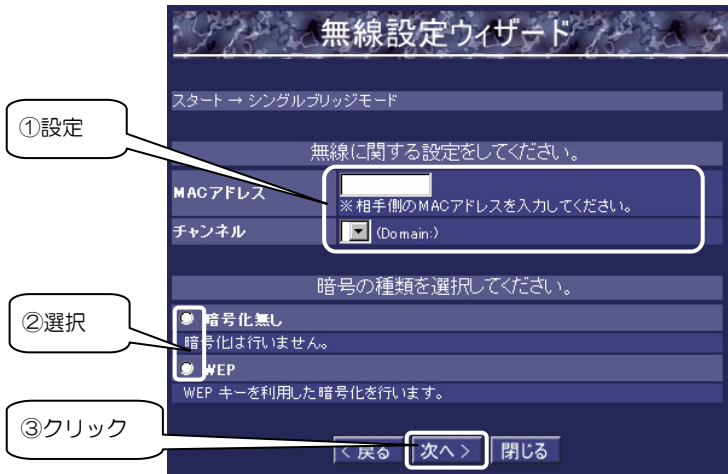
1 **37ページの【③設定画面を開く】で開いた設定画面にて、［無線設定ウィザード］ボタンをクリックします。**

無線設定ウィザードが起動します。

2 **［シングルブリッジモード］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。**

②シングルブリッジモードの設定をする（つづき）

3 無線の設定をします。

①【①設定内容を記入してください】(64ページ)で記入した[MACアドレス]、[チャンネル]を設定します。

②【①設定内容を記入してください】(64ページ)で決めた[暗号化の種類]を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

4 暗号の設定をします。

【①設定内容を記入してください】(64ページ)で選択した暗号化の種類に応じて設定してください。

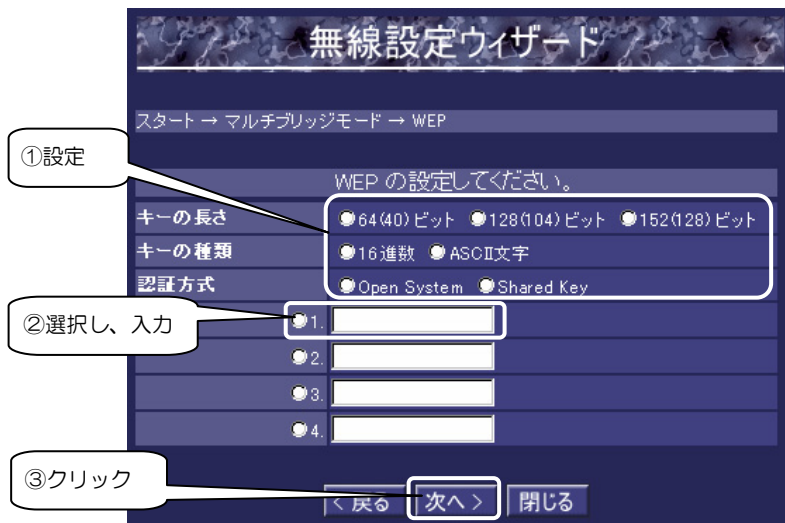
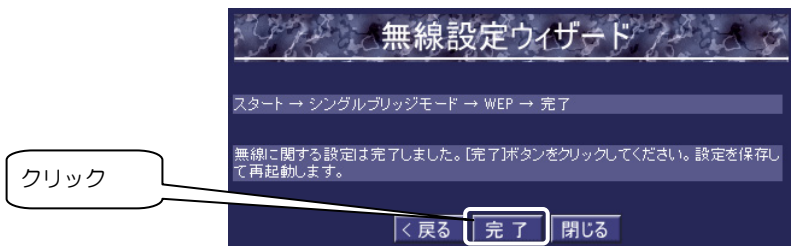
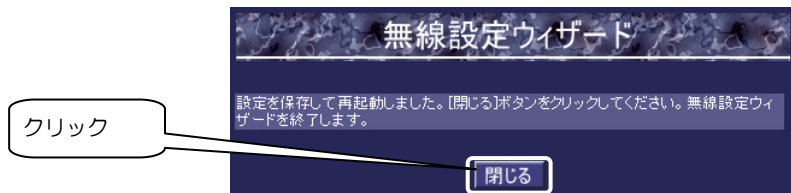
[暗号化無し]を選択した場合は、手順*5*へお進みください。

⇒【WEP】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】(64ページ)で決めた[キーの長さ]、[キーの種類]、[認証方式]を設定します。

②[1]を選択し、【①設定内容を記入してください】(64ページ)で決めた[デフォルトキー]を[1]の横の枠に入力します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

②シングルブリッジモードの設定をする（つづき）

5 [完了]ボタンをクリックします。

6 [閉じる]ボタンをクリックします。

②シングルブリッジモードの設定をする（つづき）

7 既存のLANと本製品のLANポートをLANケーブルで接続します。その後、ACアダプターを接続して電源を入れます。

8 通信相手のWN-G54/Aにも、同じシングルブリッジモードの設定をします。

これで無線LAN通信ができる状態になりました。
設定が完了したら、パソコンのIPアドレスを元に戻してください。
（【②IPアドレスを設定する】(25ページ)の手順をご参考ください。）

困った時には

設定したのに無線通信できない場合は…
⇒【困った時には】（119ページ）をご覧ください。

マルチブリッジモードで使う

マルチブリッジモードの場合の設定方法を説明します。（無線設定ウィザードを使用して、設定します。）このモードを利用するためには、別途、通信相手側のWN-G45/Aをご用意ください。（通信相手のWN-G54/Aで、下記と同じ設定をする必要があります。）

①設定内容を記入してください

設定をスムーズに進めるために、ここであらかじめ設定内容をメモしてください。

1 チャンネル決めます。

1～13 chで選択できます。（初期値：6ch）
通信相手のWN-G54/Aの設定と合わせてください。
詳しくは、【●2.4GHz帯（IEEE802.11g/b）の無線で選択するチャンネル】(76ページ)をご覧ください。

▼確認したチャンネルを記入してください。

チャンネル	

2 暗号の種類を決めます。

通信相手のWN-G54/Aの設定と合わせてください。

▼設定する暗号の種類にチェックを付けてください。

□	**[暗号化無し]…暗号化の設定をしません。** ※安全にご使用いただくために、暗号化機能を使用することを強くおすすめします。
□	**[WEP]…WEPキーを利用した暗号化を行います。**

①設定内容を記入してください（つづき）

3 [WEP]を選択した場合は、暗号キーなどを決めます。

通信相手のWN-G54/Aの設定と合わせてください。

手順 *3* で【WEP】を選択した場合の設定内容

キーの長さ	[64(40) ビット] [128(104) ビット] [152(128) ビット]
キーの種類	[16進数] [ASCII文字]
認証方式	[Open System] [Shared Key]
デフォルトキー （キー1）	

※キー２～４は通常使用しません。（設定の必要はありません。）

項目	説明
キーの長さ	64(40)ビット：送受信するデータを64ビット暗号化します。 128(104)ビット：送受信するデータを128ビット暗号化します。 152(128)ビット：送受信するデータを152ビット暗号化します。 ※152ビット暗号化はIEEE802.11規格で定義されている機能ではなく、本製品独自の規格です。
キーの種類	16進数 ：0～9またはA～Fの文字列を入力します。 ASCII ：半角英数字を入力します。
暗号化認証方式	Open System：開放型認証方式 Shared Key：共有型認証方式
デフォルトキー	[キーの長さ][キーの種類]を確認し、下記の文字数でデフォルトキーを決めてください。 （下表参照） 無線LANアダプターなど通信相手側も同じ暗号キーの種類で設定する必要があります。

	ASCII	16進数
64(40)ビット	5文字	10文字
128(104)ビット	13文字	26文字
152(128)ビット	16文字	32文字

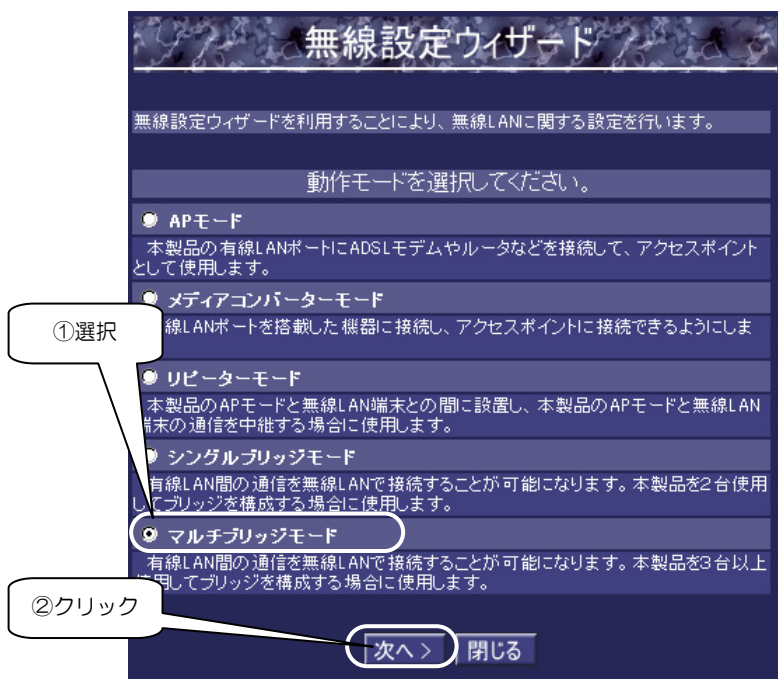
設定を決定したら、72ページへお進みください。

②マルチブリッジモードの設定をする

1 37ページの【③設定画面を開く】で開いた設定画面にて、［無線設定ウィザード］ボタンをクリックします。

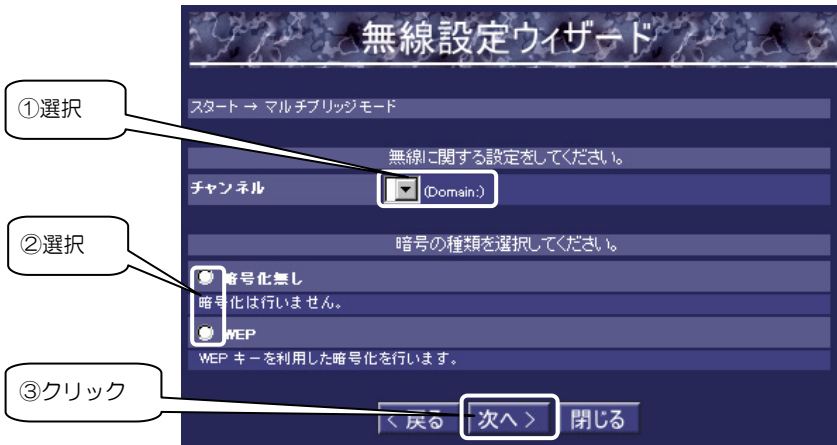
無線設定ウィザード

無線設定ウィザードが起動します。

2 ［マルチブリッジモード］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

②マルチブリッジモードの設定をする（つづき）

3 無線の設定をします。

①【①設定内容を記入してください】（70ページ）で確認した[チャンネル]を選択します。

②【①設定内容を記入してください】（70ページ）で決めた[暗号化の種類]を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

4 暗号の設定をします。

【①設定内容を記入してください】で選択した暗号化の種類に応じて設定してください。

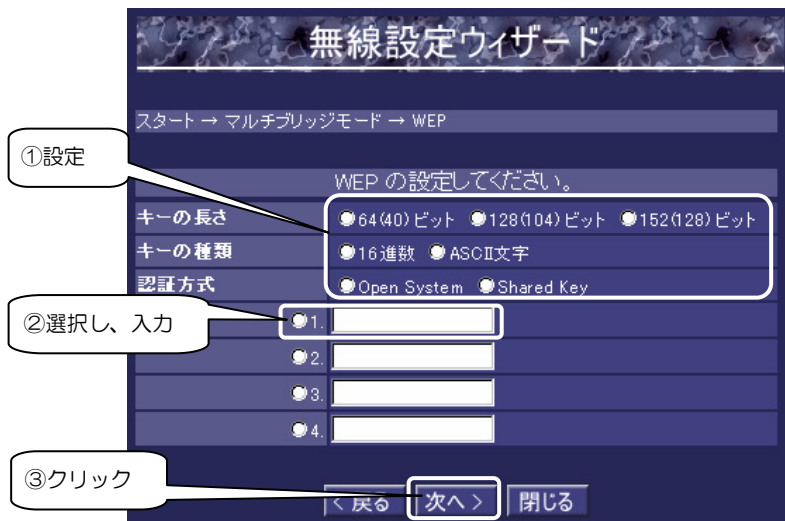
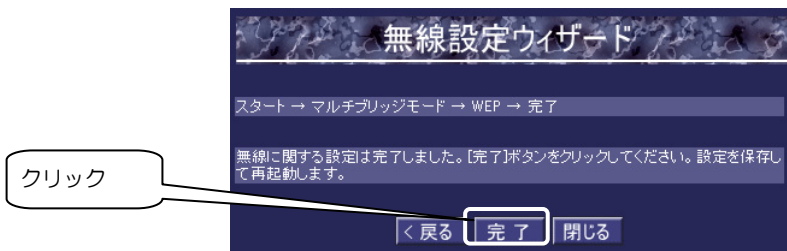
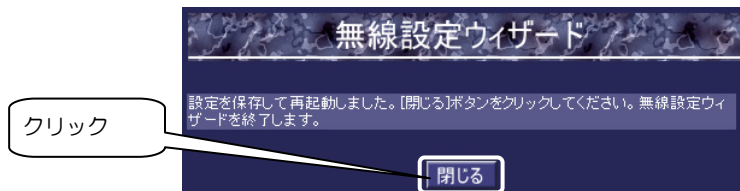
[暗号化無し]を選択した場合は、手順***5***へお進みください。

⇒【WEP】を選択した場合

①【①設定内容を記入してください】（64ページ）で決めた[キーの長さ]、[キーの種類]、[認証方式]を設定します。

②[1]を選択し、【①設定内容を記入してください】（64ページ）で決めた[デフォルトキー]を[1]の横の枠に入力します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

②マルチブリッジモードの設定をする（つづき）

5 [完了]ボタンをクリックします。

6 [閉じる]ボタンをクリックします。

②マルチブリッジモードの設定をする（つづき）

7 既存のLANと本製品のLANポートをLANケーブルで接続します。その後、ACアダプターを接続して電源を入れます。

8 通信相手のWN-G54/Aにも、同じマルチブリッジモードの設定をします。

これで無線LAN通信ができる状態になりました。
設定が完了したら、パソコンのIPアドレスを元に戻してください。
（【②IPアドレスを設定する】(25ページ)の手順をご参考ください。）

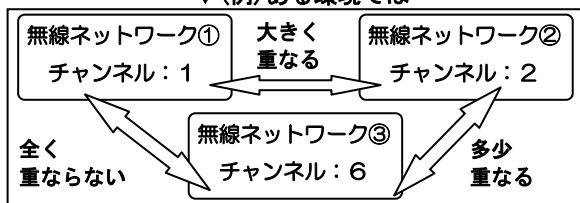
困った時には

設定したのに無線通信できない場合は…
⇒【困った時には】（119ページ）をご覧ください。

●2.4GHz 帯（IEEE802.11g/b）の無線で選択するチャンネル

2.4GHz 帯の無線では 1～13 ch まで選択できます。（一部製品では 1～14 ch まで）
複数の無線ネットワークを使用する場合、隣り合ったチャンネルは、電波の帯域が重なるため通信にロスを生じます。
電波到達範囲内で複数の無線ネットワークが存在する場合は、次ページの表をご覧になり、帯域が重ならないように設定することをおすすめします。
また、14ch（2473～2495MHz）は、IEEE802.11、IEEE802.11b で使用されている可能性がありますので、重ならないように設定することをおすすめします。
例）無線ネットワークが 3 つある場合は、それぞれ 1,6,11 チャンネルに設定

▼無線LANチャンネル一覧（2.4GHz帯の場合）
（例：１チャンネルの場合、2401～2423MHzの帯域を使用します。）

▼(例)ある環境では

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含むWNシリーズでは、暗号キーとして16進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から16進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WNシリーズや16進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16進コードの対応については下記の表を参照してください。
　〈例〉 文字で ″WNG54″ と設定している場合、
　　　　16進コードでは［57 4e 47 35 34］となります。

文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進
!	21	0	30	?	3f	N	4e	]	5d	l	6c	{	7b
″	22	1	31	@	40	O	4f	^	5e	m	6d	|	7c
#	23	2	32	A	41	P	50	_	5f	n	6e	}	7d
$	24	3	33	B	42	Q	51	`	60	o	6f	~	7e
%	25	4	34	C	43	R	52	a	61	p	70		
&	26	5	35	D	44	S	53	b	62	q	71		
’	27	6	36	E	45	T	54	c	63	r	72		
(	28	7	37	F	46	U	55	d	64	s	73		
)	29	8	38	G	47	V	56	e	65	t	74		
*	2a	9	39	H	48	W	57	f	66	u	75		
+	2b	:	3a	I	49	X	58	g	67	v	76		
,	2c	;	3b	J	4a	Y	59	h	68	w	77		
-	2d	<	3c	K	4b	Z	5a	i	69	x	78		
.	2e	=	3d	L	4c	[	5b	j	6a	y	79		
/	2f	>	3e	M	4d	¥	5c	k	6b	z	7a		

他の設定をする

本製品の設定画面各項目の説明をします。

現在の状態を確認する(ステータス)

本製品の現在の状態（ステータス）を確認できます。

80ページ

IPアドレスを変更する(アドレス設定)

本製品のIPアドレスの設定などを行います。

83ページ

高度な設定をする(高度な設定)

無線に関する高度な設定を行います。

84ページ

MACアドレス接続制限をする（MACフィルター)

本製品に接続する無線LAN機器をMACアドレスなどで制限できます。

86ページ

本製品を管理する(メンテナンス)

現在の設定の保存・復元、初期化、ファームウェアのバージョンアップを行います。

88ページ

パスワードを変更する(パスワード)

本製品の管理者パスワードを設定します。

93ページ

現在の状態を確認する(ステータス)

本製品の現在の状態を確認することができます。

ステータス

ファームウェアバージョン	1.00 Thes, 15 Apr 2004
有線ポート	※この画面は状態を表す一例です。
MACアドレス	00-A0-B0-00-00-10
IPアドレス	192.168.0.201
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
送信数	12345
受信数	12345
無線LAN	
無線モード	AP モード
SSID	default
チャンネル	6
暗号化	無効
送信数	12345
受信数	12345
	ログの表示
接続時間	無線端末
Apr/22/2004 15:00:00	00-A0-B0-00-00-01
Apr/22/2004 15:00:01	00-A0-B0-00-00-02
Apr/22/2004 15:00:02	00-A0-B0-00-00-03

▼有線ポート

項目	説明
MACアドレス	本製品のMACアドレスです。
IPアドレス	本製品の現在のIPアドレスです。 初期値：192.168.0.201
サブネットマスク	本製品の現在のサブネットマスクです。 初期値：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	本製品の現在のデフォルトゲートウェイです。
送信数	本製品のLANポートに送信したパケットの総数です。 （単位：パケット）
受信数	本製品のLANポートで受信したパケットの総数です。 （単位：パケット）

▼無線LAN

項目	説明
無線モード	現在、使用しているモードを表示します。 （APモード、メディアコンバーターモード、シングルブリッジモード、マルチブリッジモード）
SSID	本製品のSSIDです。
チャンネル	本製品のチャンネルです。
暗号化	現在の暗号化の種類を表示します。 （無効、WEP-64bit、WEP-128bit、WEP-152bit、802.1x/EAP、WPA-PSK、WPA）
送信数	本製品の無線LANにて、送信したパケットの総数です。 （単位：パケット）
受信数	本製品の無線LANにて、受信したパケットの総数です。 （単位：パケット）

ボタン	説明
ログの表示	ログを表示します。詳しくは次ページをご覧ください。

項目	説明
接続時間	APモード時、無線クライアントが接続した時間を表示します。
接続端末	APモード時、接続されたMACアドレスを表示します。

ログ

[ログの表示]ボタンをクリックすると、ログを表示します。

最初のページ　最後のページ　前のページ　次のページ　ログをクリア　情報の更新

時間	メッセージ
Apr/01/2004 15:00:02	System started
Apr/01/2004 15:00:01	AP 2.4GHz mode Ready. Channel: 6 TxRate: best SSID: default
Apr/01/2004 15:00:00	Access point: default started at channel 6.

ボタン	説明
最初のページ	最初のページに移動します。
最後のページ	最後のページに移動します。
前のページ	前のページに移動します。
次のページ	次のページに移動します。
ログをクリア	ログを消去します。
情報の更新	最新の情報に更新します。

項目	説明
時間	メッセージを記録した時間です。
メッセージ	本製品の動作に関するメッセージを表示します。

IPアドレスを変更する(アドレス設定)

アドレス設定

本製品のIPアドレスを設定できます。

IPアドレスを変更する

1 左のメニューから[アドレス設定]をクリックします。

アドレス設定

2 IPアドレスを設定します。

①[装置の名前]に、32文字までの半角英数文字で任意の名前を入力します。

②DHCPサーバーから自動取得する場合は、[DHCPサーバーから取得]にチェックを付けます。
固定で設定する場合は、[手動設定]にチェックをつけて、以下の[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]を入力します。

③[設定]ボタンをクリックします。

3 再起動の画面が表示されたら、設定は終了です。

高度な設定をする(高度な設定)

高度な設定

通常は変更の必要はありません。

項目	説明
ビーコン間隔	APモード時のみ有効になります。 ビーコンの間隔を20ms～1000msで設定します。ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。 初期値：100
RTSスレッショルド	RTSを使用する時のパケットのサイズを256～2346で設定します。アクセスポイントは実際のデータを送信する前に、RTS(送信要求)パケットを送信して、データを送信して良いか確認しています。パケットのサイズを低めに設定すると、頻繁にRTSパケットが送出されるので、一般にスループットは低下します。 初期値：2346
フラグメンテーションスレッショルド	パケットが断片化される時のパケットサイズを256～2346(偶数のみ)で設定します。 電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、一般にスループットは低下します。 初期値：2346

項目	説明
DTIM間隔	APモード時のみ有効になります。 ビーコンに対し、どの程度の間隔でDTIMを挿入するかを1～255の間隔で設定します。 DTIM（delivery traffic indication message）とは省電力モードの無線クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。DTIMはビーコンに含まれて送信されています。 例えば“2”と設定すると、DTIMが含まれたビーコンと含まれていないビーコンが交互にアクセスポイントから送信されるようになります。 初期値：1
送信速度	データを送受信する際に、使用できる速度を設定できます。 通常、[Auto]から変更する必要はありません。 従来の無線LAN製品と接続できない場合、速度を固定することによって接続できる場合があります。 初期値：Auto
送信出力	無線の電波出力を調節して、電波の飛びすぎを防ぎます。 （100%/50%/25%/12.5%/最小） 初期値：100%
送信モード	APモード時のみ有効になります。 本製品が動作する無線通信規格を選択できます。 802.11g/b（初期値）：IEEE802.11g、IEEE802.11b両規格の無線LANアダプターが混在するネットワーク環境の場合に選択します。通常はこのモードを利用します。 802.11g専用：IEEE802.11gの無線LANアダプターのみのネットワーク環境の場合に選択します。 このモードを利用することにより、IEEE802.11g、IEEE802.11bが混在するネットワークに比べて、無線通信速度が向上する場合があります。。 802.11b 専用：IEEE802.11b規格のみで接続できます。 Wi-Fi取得済みの無線LANアダプターとの無線通信がより安定する場合があります。

MACアドレス接続制限をする（MACフィルター）

MACフィルター

MACアドレスにて本製品への接続制限ができます。
本製品のモードがAPモード時のみ有効となります。

MACフィルターを設定する

1 左のメニューから[MACフィルター]をクリックします。

MACフィルター

2 制限するMACアドレスを設定します。

①[機能]の[有効]にチェックを付けます。

②[フィルター方法]を選択します。

③接続制限を行う無線LANのMACアドレスを入力します。
　最大50件まで登録できます。（[ページ]にて切り替え可能）

④[設定]ボタンをクリックします。
　設定はページごとに行ってください。

MACフィルターを設定する（つづき）

3 再起動の画面が表示されたら、設定は終了です。

続けて他の設定する場合は、5秒ほど待ってから[戻る]ボタンをクリックしてください。

装置は再起動中です

5秒待ってから[戻る]をクリックしてください。
戻る

本製品を管理する(メンテナンス)

設定の保存、設定の復元、設定の初期化、ファームウェアのバージョンアップができます。

メンテナンス

現在の設定を保存する

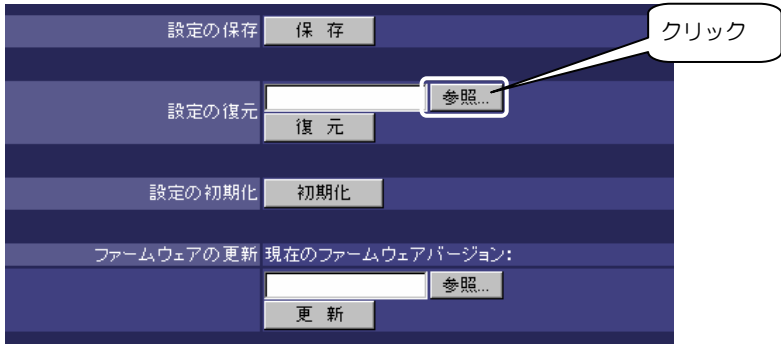
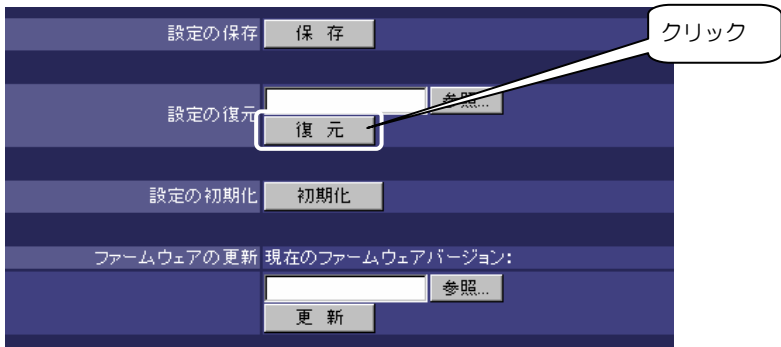
1 左のメニューから[メンテナンス]をクリックします。

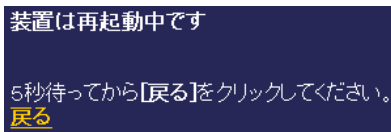
2 [設定の保存]の[保存]をクリックし、画面の指示にしたがって保存してください。

以上で完了です。

設定を復元する

1 左のメニューから[メンテナンス]をクリックします。

2 [設定の復元]の[参照]をクリックし、[設定の保存]で保存したファイルを選択します。

3 [設定の復元]の[復元]をクリックします。

4 再起動の画面が表示されたら、設定は終了です。

続けて他の設定する場合は、5秒ほど待ってから[戻る]ボタンをクリックしてください。

設定を初期化する

設定を初期化すると、現在の設定がすべて出荷時設定に戻ります。
この機能を使用する場合は、事前に設定の保存を行うことをおすすめします。

1 左のメニューから[メンテナンス]をクリックします。

メンテナンス

2 [設定の初期化]の[初期化]をクリックし、画面の指示にしたがいます。

3 再起動の画面が表示されたら、設定は終了です。

続けて他の設定する場合は、5秒ほど待ってから[戻る]ボタンをクリックしてください。

ファームウェアを更新する

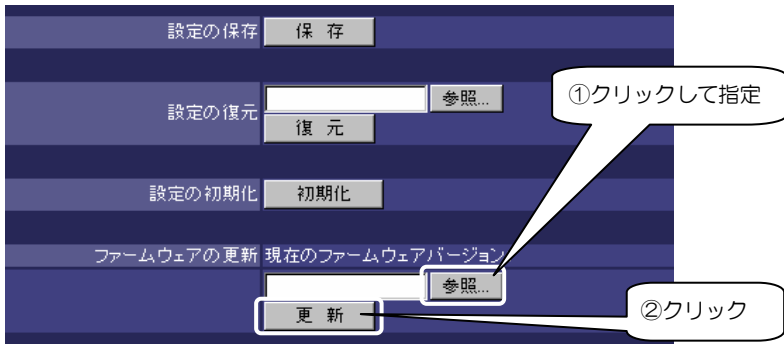
ファームウェアの更新は本製品のLANポートに有線接続したパソコンから行ってください。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（http://www.iodata.jp/lib/）から、最新のファームウェアファイルを入手します。

2 安全に更新するために、パソコンに常駐しているソフトウェアを停止します。

3 左のメニューから[メンテナンス]をクリックします。

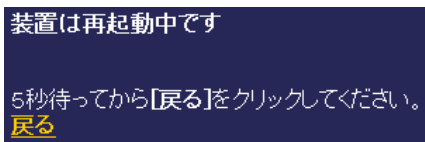
メンテナンス

4 ファームウェア更新の［参照］ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。指定後、［更新］ボタンをクリックします。

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。故障の原因となります。

ファームウェアを更新する（つづき）

5 再起動の画面が表示されたら、更新は終了です。
[戻る]ボタンをクリックします。

装置は再起動中です

5秒待ってから[戻る]をクリックしてください。
戻る

6 ［ステータス］の［ファームウェアバージョン］で、更新後のバージョンになっていることをご確認ください。

以上で完了です。

パスワードを変更する(パスワード)

本製品の管理者用パスワードを変更します。

パスワード

1 左のメニューから[パスワード]をクリックします。

2 パスワードを設定します。

①[管理者ログイン名]に半角英数字32文字までの任意の名前を入力します。

②[管理者パスワード]に半角英数字32文字までの任意のパスワードを入力します。

③確認のため、[パスワード再入力]に[管理者パスワード]を再入力します。

④[設定ボタンをクリックします。

あとは画面の指示にしたがってください。

以上で完了です。

ここで設定した[管理者ログイン名]と[管理者パスワード]は、本製品の設定画面を開く際に入力します。
設定した内容は、メモしておくことをおすすめします。

その他

出荷時設定に戻す

パスワードを忘れてしまったときなどに、本製品の設定を出荷時設定に戻します。（初期化）

☞ 96ページ

TCP/IPの基礎知識

本製品を設定するときに必要なTCP/IPについて説明します。

☞ 97ページ

AirMac、AirMac Extremeから接続する

AirMacやAirMac Extremeで本製品と接続する方法を説明します。

☞ 99ページ

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

☞ 109ページ

用語解説

用語について説明します。

☞ 121ページ

仕様

本製品の仕様です。

☞ 127ページ

アフターサービス

本製品の問い合わせ先、修理先です。

☞ 129ページ

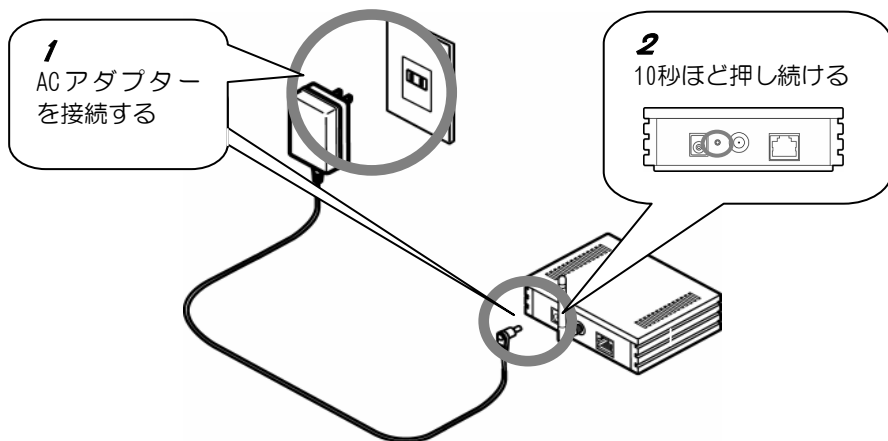
出荷時設定に戻す

本製品のIPアドレスを忘れてしまったときなどに、本製品を出荷時設定に戻します。

以下の手順を行うと、設定内容はすべて出荷時設定に戻ります。

●リセットスイッチで戻す

1 LANケーブルを外し、ACアダプターを接続して、POWERランプが点灯したことを確認します。

2 細いピン(シャーペン)などでリセットスイッチを10秒以上押し続けます。

3 リセットスイッチを離して、10秒ほど電源を切らずお待ちください。
→これで、出荷時設定に変更されました。

●Web設定画面で戻す

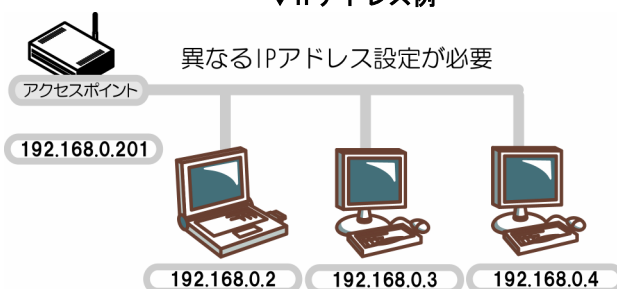
Web設定画面で行います。詳しくは、【設定を初期化する】90ページをご覧ください。

TCP/IPの基礎知識

ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

ネットワーク上で使用するアクセスポイントや各パソコンには、“192.168.0.201”のようにピリオドで４つに区切られた数字を設定する必要があります。
これをIPアドレスと言い、ネットワーク上で同じにならないように設定する必要があります。

▼IPアドレス例

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスの４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

この数字でクラス分け

IPアドレス　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは次のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～126	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127、224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

AirMac、AirMac Extremeから接続する

ここでは、AirMacやAirMac Extremeで接続する手順を説明します。

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する

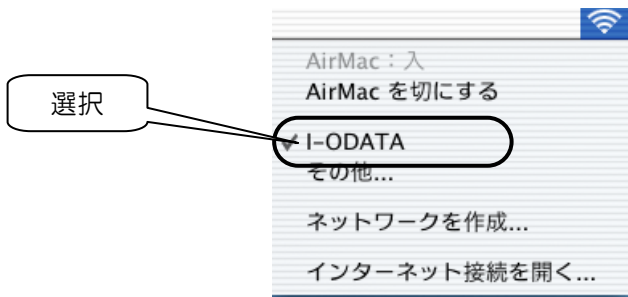
●Mac OS Xでの設定例 (Mac OS (Classic)の場合は101ページ参照)

1 メニューバーのAirMacアイコンをクリックし、[AirMacを入にする]を選択します。

2 AirMacのメニューから本製品に設定したSSIDを選択します。

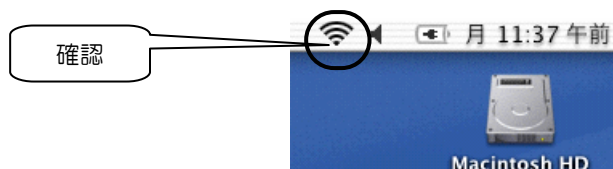
SSIDは自動で検出されます。

※SSIDが表示されない場合は、103ページをご覧ください。

▼本製品のSSIDを“I-ODATA”に設定した時の選択例

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

3 暗号化済みの本製品に接続する場合、暗号キーが要求されます。

AirMac、AirMac Extremeでは暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（107ページ）をご覧ください。

4 メニューバー上のAirMacアイコンが になっていることを確認します。

これで、接続完了です。

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

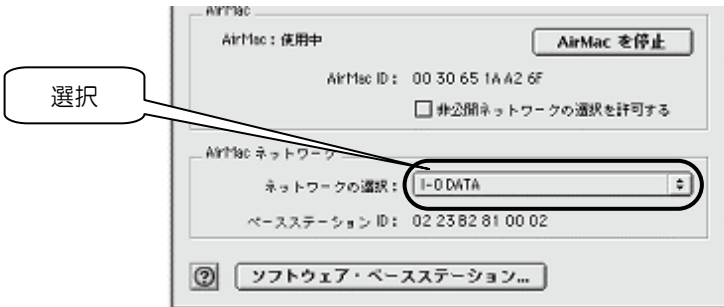
●Mac OS（Classic）での設定例

1 ［アップルメニュー］→［AirMac］をクリックします。

2 ［AirMacネットワーク］内の［ネットワークの選択］で本製品に設定したSSIDを選択します。

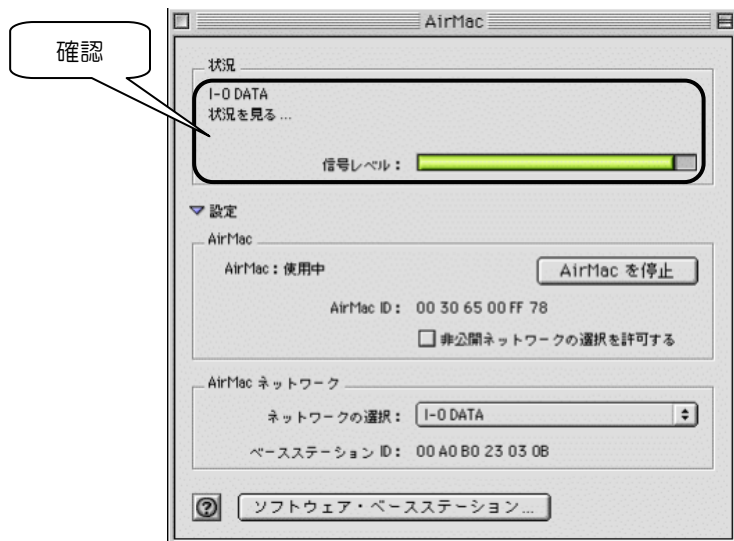
SSIDは自動で検出されます。

※SSIDが表示されない場合は、105ページをご覧ください。

▼本製品のSSIDを“I-O DATA”に設定した時の選択例

3 暗号化済みの本製品に接続する場合、暗号キーが要求されます。

AirMacでは暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（107ページ）をご覧ください。

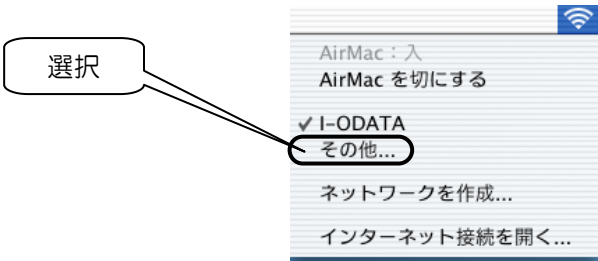
AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

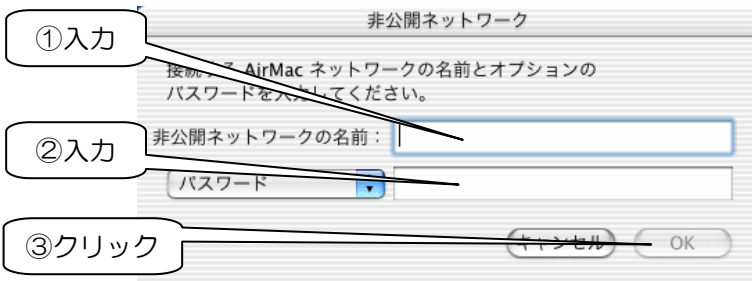
4 ［状況］内に本製品に設定したSS IDと信号レベルの表示があることを確認します。

これで、接続完了です。

SSIDを選択できない場合

本製品でSSID通知機能を無効に設定している場合は、SSIDが表示されません。
その場合下記の手順にしたがってください。

●Mac OS X の場合 (Mac OS (Classic)の場合は105ページ参照)

1 AirMacのメニューから[その他...]を選択します。

2 SSIDと暗号キーを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

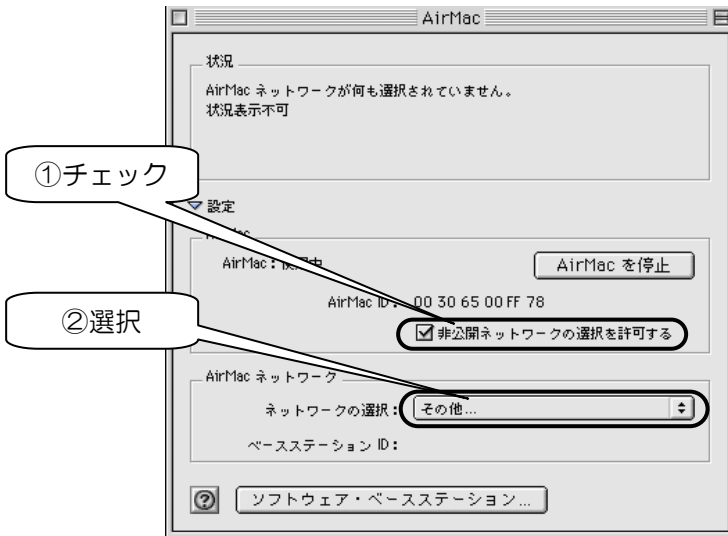
①[非公開ネットワークの名前]にSSIDを入力します。
②暗号化済みの場合、[パスワード]に暗号キー(WEP)を入力します。
AirMac、AirMac Extremeでは暗号キーの入力方法が特殊です。
入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（107ページ）をご覧ください。
③[OK]ボタンをクリックします。

SSIDを選択できない場合（つづき）

3 メニューバー上のAirMacアイコンが になっていることを確認します。

これで、接続完了です。

SSIDを選択できない場合（つづき）

●Mac OS (Classic)の場合

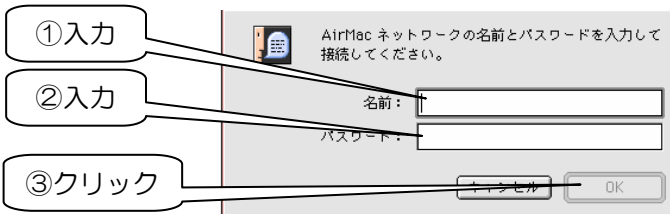
1 [非公開ネットワークの選択を許可する]にチェックを入れ、[その他]を選択します。

2 SSIDと暗号キーを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

①[名前]にSSIDを入力します。

②暗号化済みの場合、[パスワード]に暗号キー(WEP)を入力します。

AirMacでは暗号キーの入力方法が特殊です。

入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（107ページ）をご覧ください。

③[OK]ボタンをクリックします。

SSIDを選択できない場合（つづき）

3 ［状況］内に本製品に設定したSSIDと信号レベルの表示があることを確認します。

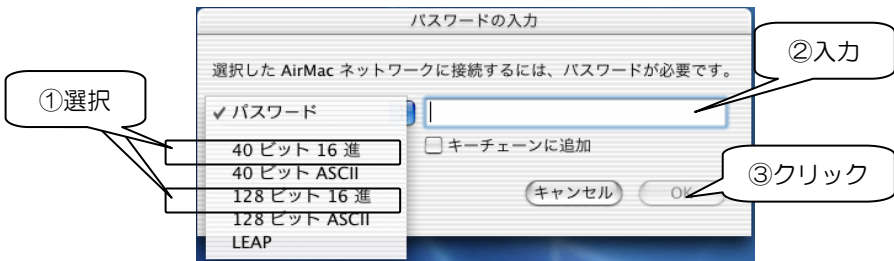
これで、接続完了です。

AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について

※[パスワード]とは、本製品で設定したWEP(暗号キー)のことです。

●本製品に暗号化(16進数)を行っている場合

Mac OS X でパスワード項目を選択できる場合

①[40 ビット 16 進]または[128 ビット 16 進]を選択します。
②本製品で設定した暗号キーをそのまま入力してください。
③[OK]ボタンをクリックします。

上記以外の場合（パスワード項目を選択できない場合）

本製品で設定した暗号キーの頭に　$　(半角ドル記号)を付けて入力します。

例）$1234567890

▼Mac OS X　　▼Mac OS (Classic)

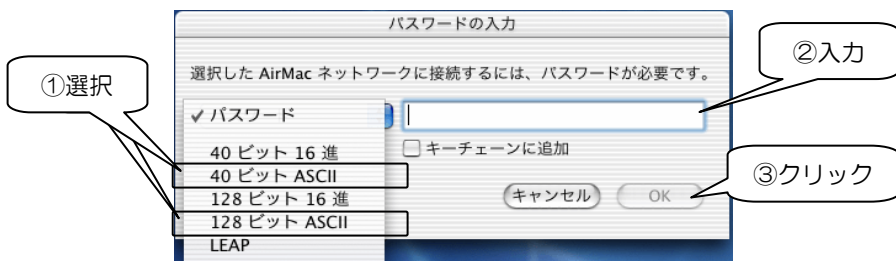
AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について（つづき）

●本製品にASCII文字での暗号化を行っている場合

Mac OS X でパスワード項目を選択できる場合

①[40 ビット ASCII]または[128 ビット ASCII]を選択します。

②本製品で設定した暗号キーをそのまま入力してください。

③[OK]ボタンをクリックします。

上記以外の場合（パスワード項目を選択できない場合）

本製品で設定した暗号キーの前後を " (半角ダブルクォート)で囲んで入力します。

例） **"abcde"**

▼Mac OS X

パスワードの入力

選択した AirMac ネットワークに接続するには、パスワードが必要です。

パスワード：

キーチェーンに追加

キャンセル　OK

▼Mac OS（Classic）

選択した AirMac ネットワークに参加するにはパスワードが必要です。

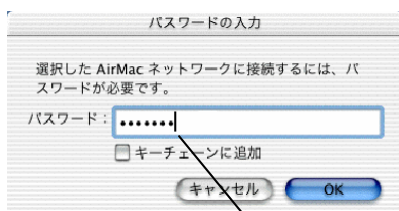
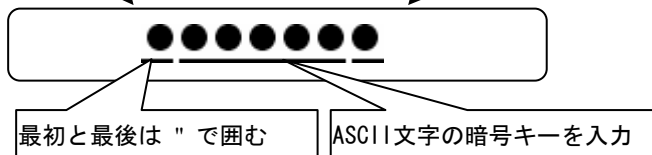
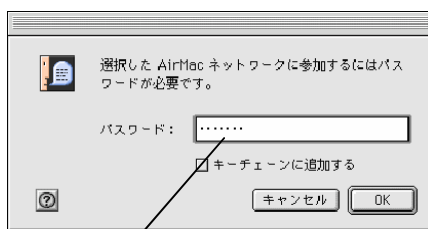
パスワード：

キーチェーンに追加する

キャンセル　OK

●●●●●●●

最初と最後は " で囲む

ASCII文字の暗号キーを入力

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q&A
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

【設定時のトラブル】

【無線LAN接続時のトラブル】

ランプが点灯しない

原因１	《[POWER]ランプが点灯しない場合》 ACアダプタを取り付けていない
対処	付属のACアダプターを取り付けてください。ACアダプターは必ず付属のものをご使用ください。ACアダプターを抜いた直後は、5秒以上待ってから取り付けてください。

原因２	《[LINK/ACT]ランプが点灯しない場合》 [LAN]ポートに取り付けたLANケーブルが正しく接続できていない、または、接続先のパソコンなどの電源が入っていない
対処	LANケーブルの接続と、接続先のパソコンなどの電源が入っていることをご確認ください。

設定画面が表示されない

原因１	接続が正しくない
対処	【①設定用パソコンをつなぐ】（22ページ）をご覧になり、接続が正しいことをご確認ください。

原因２	設定用パソコンのIPアドレスが本製品と通信できる値になっていない。
対処	【②IPアドレスを設定する】（25ページ）をご覧になり、IPアドレスの設定が正しいことをご確認ください。

原因３	セキュリティー関連のソフトウェアをインストールしている。
対処	セキュリティー関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティー関連のソフトウェアメーカにお問い合わせください。

原因４	本製品のIPアドレスと、接続しているネットワークのIPアドレスの体系が合っていない。
対処	次ページの方法で、本製品のIPアドレスを本製品が接続されているネットワークと通信できるものに合わせてください。

接続しているネットワークとIPアドレス体系を合わせる

1 一時的に本製品と設定用パソコンは接続しないで、ネットワークに接続した状態のパソコンのIPアドレスを確認します。
【②IPアドレスを設定する】（25ページ）でメモしたIPアドレス、サブネットマスクをご確認ください。

⇒IPアドレスが[自動的に取得する]設定になっている場合は、以下の手順でIPアドレスを確認してください。

<Windows XP/2000の場合>
①[スタート]→[プログラム]([すべてのプログラム])→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。
②IPCONFIG　と入力し、Enterキーを押します。
③表示される[IP Address]と[Subnet Mask]をメモしてください。
<Windows Me/98の場合>
①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
②WINIPCFG　と入力、[OK]ボタンをクリックします。
③[IP設定]画面が表示されますので、[IPアドレス]と[サブネットマスク]をメモしてください。

2 パソコンのIPアドレスを変更します。
設定用パソコンと本製品をLANケーブルで接続した状態で、【②IPアドレスを設定する】（25ページ）の手順でIPアドレス、サブネットマスクを変更してください。

3 InternetExplorerを起動して、アドレス欄に「http://192.168.0.201」と入力して、Enterキーを押します。
（詳しくは【③設定画面を開く】（37ページ）をご覧ください。）

4 下記の設定例を参考に本製品のIPアドレス、サブネットマスクを設定します。（設定方法は【IPアドレスを変更する(アドレス設定)】（83ページ）をご覧ください。）

設定例

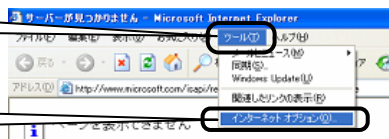
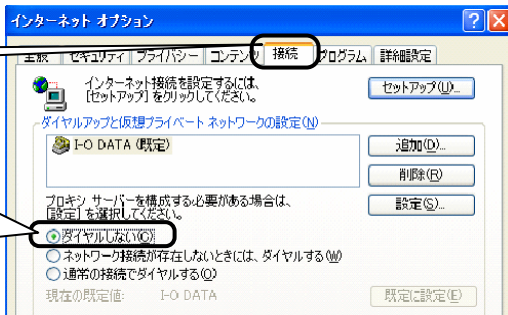
<IPアドレス>
1 で確認したIPアドレスが「192.168.1.xxx」(xxxは1～254)の場合
本製品のIPアドレスは192.168.1.202などに設定します。
※xxxと4番目の数字(上の例では202)が重ならないように設定してください。また、左から３つの数字は同じ値に設定してください。
<サブネットマスク>
1 で確認したサブネットマスクと同じ値に設定します。

ここで設定した IP アドレスは、本製品の設定画面を開く際に必要となります。変更した IP アドレスはメモしておくことをおすすめします。

5 設定用パソコンのIPアドレスを、手順 **1** にてメモした値に戻します。

6 設定画面が開けることを確認します。
InternetExplorerのアドレス欄に**4**で設定したIPアドレスをと入力して、Enterキーを押します。

原因５	Webブラウザがダイヤルアップする設定になっている。
対処	下記の手順にしたがってください。

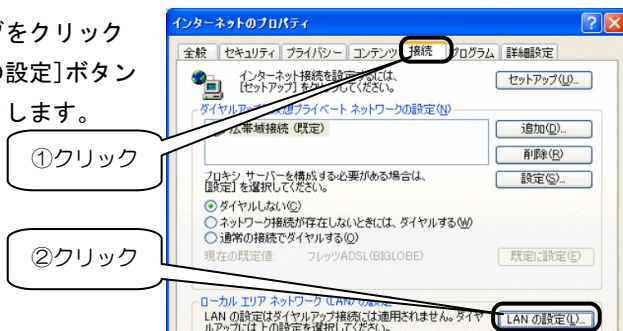
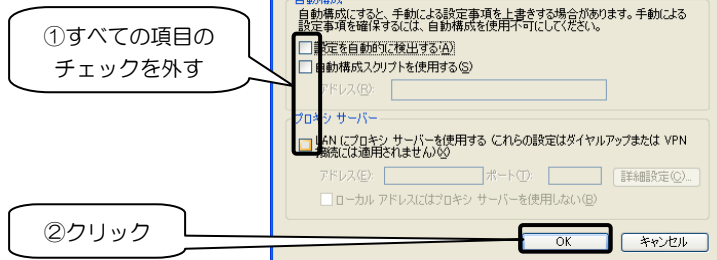
1 ［Internet Explorer］画面の［ツール］メニューの［インターネット オプション］をクリックします。
※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 ［接続］タブをクリックし、［ダイヤルしない］をチェックします。

これで設定は完了です。

原因６	Webブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	ブラウザがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。一時的にブラウザの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 Windows でプロキシの設定を解除する・・・・・・・・・・・・本ページ Mac OS X でプロキシの設定を解除する・・・・・・・・・・・114ページ Mac OS (Classic)でプロキシの設定を解除する ・・・115ページ

Windowsでプロキシの設定を解除する

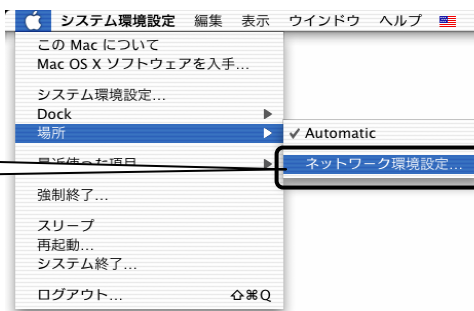
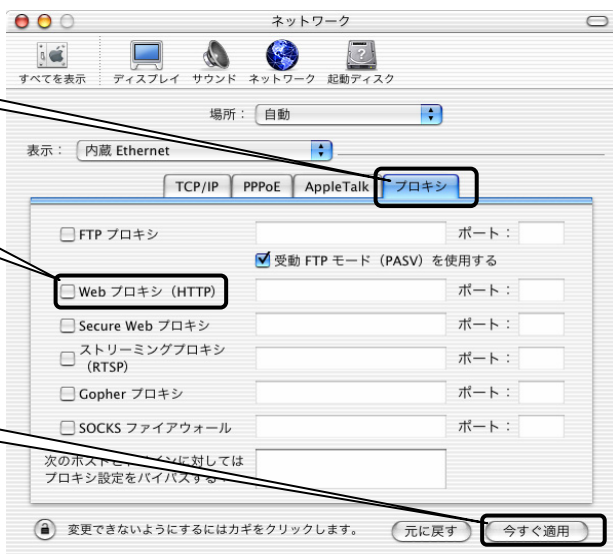
1 Internet Explorerを起動し、[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 [接続]タブをクリックし、[LANの設定]ボタンをクリックします。

3 下記の設定を行います。

4 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

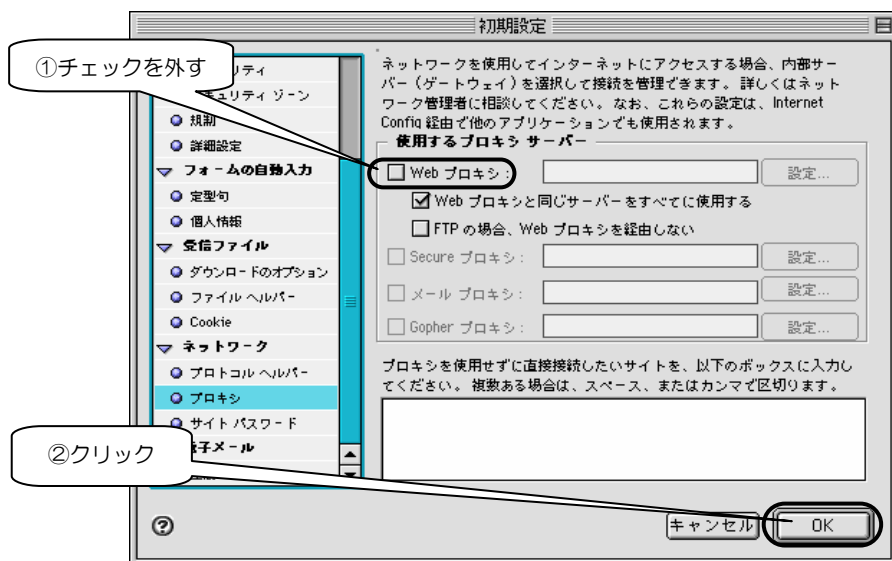
> これで設定は完了です。
> ※本製品の設定完了後にプロキシ設定を元に戻してください。

Mac OS Xでプロキシの設定を解除する

1 [アップルメニュー]→[場所]→[ネットワーク環境設定...]を選択します。

2 [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。

3 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

> これで設定は完了です。
> ※本製品の設定完了後にプロキシ設定を元に戻してください。

Mac OS (Classic)でプロキシの設定を解除する

1. Internet Explorerを起動します。
2. ［編集］→［初期設定...］を選択します。
3. ［▽ネットワーク］の［プロキシ］を選択します。
4. 以下の設定を行います。

これで設定は完了です。
※本製品の設定完了後にプロキシ設定を元に戻してください。

原因7	本製品のIPアドレスを[DHCPサーバーから取得]に設定しているが、DHCPサーバーからIPアドレスの取得に失敗している。
対処	DHCPサーバーが正しく動作していることを確認し、本製品をネットワークに接続してから本製品の電源を入れてください。 または、本製品を出荷時設定に戻してから、設定をやり直してください。（【出荷時設定に戻す】（96ページ）参照）

パスワードを入力しても、設定画面が起動しない

原因	ユーザー名またはパスワードが間違っている
対処	正しいユーザー名またはパスワードを入力してください。（大/小文字もご確認ください。）パスワードを忘れてしまった場合は、【パスワードを忘れてしまった】（下記）をご覧ください。

パスワードを忘れてしまった

対処	【出荷時設定に戻す】（96ページ）で、出荷時設定に戻してください。パスワードは出荷時設定では、設定されていません。 また、その他の設定も初期化されますので、再設定してください。

設定画面で文字が入力できない

原因１	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

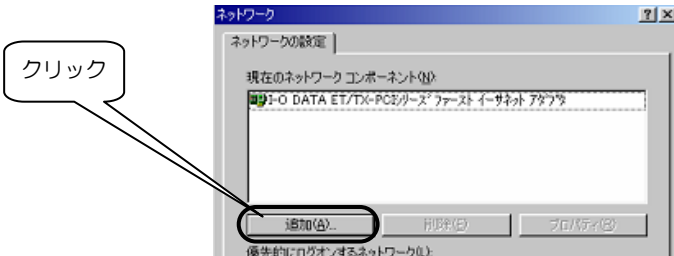
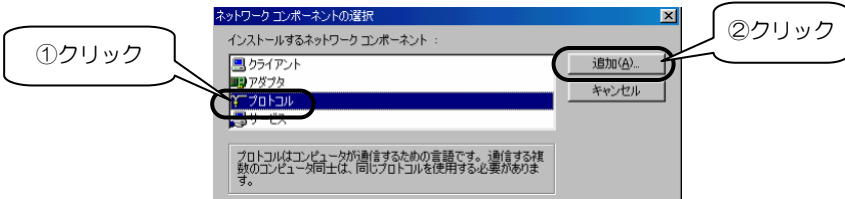
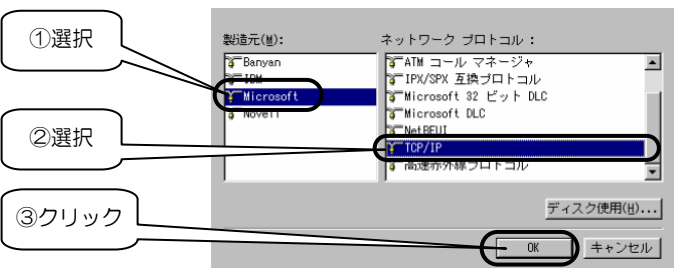
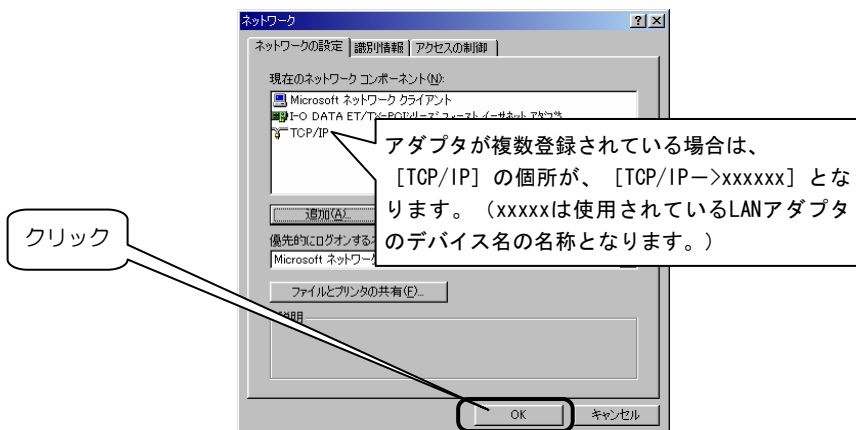
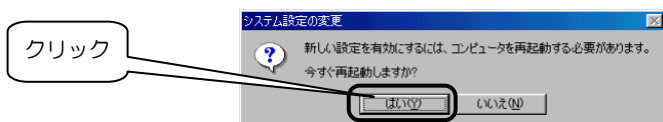
原因２	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字（半角英数字）かを確認してから入力してください。

[TCP/IP]が表示されていない　（Windows Me/98 SEの場合）

原因	TCP/IPプロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順でTCP/IPをインストールします。

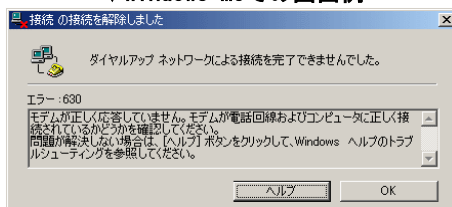
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。

※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

これで設定は完了です。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」（以下の画面）

▼Windows Meでの画面例

原因	Webブラウザがダイヤルアップする設定となっている。
対処	【設定画面が表示されない】の原因５(112ページ)をご覧ください。

暗号化を使用したら通信速度が低下した

原因	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下する場合があります。

他のアクセスポイントと無線通信できない(APモードの場合)

原因	本製品がAPモードの場合、本製品同士を含むアクセスポイント同士の無線通信はできません。
対処	本製品をAPモード以外の設定でご利用ください。 （詳しくは、【モード別の設定をする】39ページ参照）

設定したのに無線通信できない

原因１	（APモードの場合のみ） 無線LANアダプター側パソコンの無線の設定が正しくない
対処	無線LANアダプター側のモードが[Infrastructure]になっていることと、SSIDが本製品の値と同じになっていることを確認してください。

原因２	（APモードの場合のみ） 本製品無線LANアダプター側のパソコンがWindows Me/98 SEの場合で、正常にログインしていない（パソコン起動時の［ユーザー名］［パスワード］の入力画面で［キャンセル］ボタンをクリックしているなど）
対処	パソコン起動時の［ユーザ名］［パスワード］の入力画面で正しい［ユーザ名］［パスワード］を入力してください。

原因３	暗号キーの設定があっていない
対処	本製品と通信相手の無線LAN機器側の暗号キーの設定を同じ暗号キーにしてください。

原因４	MACアドレスなどで接続制限されているLANアダプタから通信している
対処	接続制限を解除してください。（【MACアドレス接続制限をする（MACフィルター)】86ページ参照）

原因５	パソコンのIPアドレスの設定が正しくない
対処	⇒パソコンのIPアドレスが自動取得(DHCP)の場合は、DHCPサーバーの電源が入っていることを確認してから、パソコンの電源を入れてください。 ⇒パソコンのIPアドレスが固定の場合は、本製品のIPアドレスと同一クラスのIPアドレスを設定してください。

原因６	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因７	本製品をシングルブリッジモードやマルチブリッジモードに設定している。
対処	シングルブリッジモードやマルチブリッジモードの場合、無線LANアダプターと通信できません。APモードでご利用ください。 （詳しくは、【モード別の設定をする】39ページ参照）

原因８	（シングルブリッジモードやマルチブリッジモードの場合のみ） 設定した通信相手のWN-G54/AのMACアドレスが間違っている
対処	設定画面に通信相手のWN-G54/AのMACアドレスが登録されていることをご確認ください。（詳しくは、【シングルブリッジモードで使う】64ページ、【マルチブリッジモードで使う】70ページ参照）

無線LANアダプター側のパソコンとの通信速度が遅い、不安定

原因１	電波の状態が悪い
対処	無線LANアダプターと本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因２	ノートパソコンで省電力機能が有効になっている
対処	省電力機能の設定を無効にしてください。（詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。）

用語解説

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

AES　*(Advanced Encryption Standard)*

現在標準暗号として用いられている DES に代わる次世代の暗号標準となる予定の次世代標準暗号化方式です。

DHCP　*(Dynamic Host Configuration Protocol)*

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DNS　*(Domain Name System)*

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバー

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバーのことです。DNS サーバーを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります）

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、100BASE-TX、10BASE-T などがあります。

IEEE802.11

IEEE（The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.）という非営利団体が定める無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。
IEEE802.11gとIEEE802.11aでは、通信速度が54Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure

「インフラストラクチャ」といい、アクセスポイントを介して通信する無線LANの形態のことです。

IPアドレス

TCP/IPプロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

LAN　*(Local Area Network)*

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。
LANに対してWAN(Wide Area Network)があり、WANはLAN同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MACアドレス　*(Media Access Control Address)*

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。
MACアドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザーコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザーコードは、Ethernet機器の製造メーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

Radius サーバー (*Remote Authentication Dial-In User Service*)

Livingston Enterprise 社が開発したダイヤルアップユーザーの認証システムです。アクセスサーバとの間で認証用のユーザーID やパスワードをやり取りする際に用いられるサーバーのことです。

SS ID (*Service Set ID*)

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS ID が一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP (*Transmission Control Protocol / Internet Protocol*)

通信プロトコルの１つです。最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

TKIP (*Temporal Key Integrity Protocol*)

従来の暗号化方式である WEP の脆弱性を克服するために、キーを自動的に変更して暗号化を行うように改良された暗号化プロトコルです。
定期的に使用する暗号キーを変更するため、キーの解析が困難となり、
WEP より強固なセキュリティとなります。

WEP (*Wired Equivalent Privacy*)

IEEE802.11b に含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

WPA (*Wi-Fi Protected Access*) WPA-PSK(TKIP)

現在の標準となっている暗号化 WEP よりも、よりセキュリティー強度を向上させた暗号化規格です。
各無線通信機器同士の通信時に使用する暗号鍵を一定時間毎に自動的に更新する「TKIP」(Temporal Key Integrity Protocol)暗号化プロトコルを採用しています。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器のIPアドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバー

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LANで使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IPアドレスと組み合わせる値です。

セッション

TCP/IPプロトコルによるデータ処理の単位です。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

LAN ケーブルを複数本集めて、通信を行うための LAN 機器（集配線装置）です。

ファイアウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。名前の由来は「防火壁（firewall)」にちなんでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベート IP アドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できる IP アドレス。
以下のものが利用できるとされています。

ClassA　:　10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB　:　172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC　:　192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LAN のセグメント間を相互接続する機器で、OSI 参照モデルのデータリンク層で動作します。
パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リピーター

LANの中継を行うことです。
無線LANでは、電波が届かない場合などに、無線アクセスポイント⇔無線LANアダプター間を中継することを指します。

リンク

各機器間を接続することです。

ローミング

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。その場合、それぞれのアクセスポイントのSS IDとWEPが同じ設定である必要があります。

仕様

●ハードウェア仕様

商品名	IEEE802.11b/g 無線LAN アクセスポイント
製品型番	WN-G54/A
準拠規格	無線部：IEEE802.11g、IEEE802.11b、ARIB STD-T66 有線部：IEEE802.3(10BASE-T)、IEEE802.3u(100BASE-TX)
周波数帯域	2.4GHz帯　　(2.4 ～ 2.4835GHz)
チャンネル	1 ～ 13ch
伝送方式	IEEE802.11g：直交周波数分割多重(OFDM) IEEE802.11b：直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	IEEE802.11g：6/9/12/18/24/36/48/54Mbps IEEE802.11b：1/2/5.5/11Mbps 有線部：10/100Mbps(Half-duplex)、20/200Mbps(Full-duplex)
変調方式	IEEE802.11g：OFDM with BPSK、QPSK、16QAM、64QAM IEEE802.11b：DBPSK、DQPSK、CCK
無線整備の種別	小電力データ通信システム
データ到達距離(最大)	見通し300m ※環境により変化します。
WDS機能(モード)種類	APモード、メディアコンバーターモード、リピーターモード、 シングルブリッジモード、マルチブリッジモード
対応プロトコル	TCP/IP、Apple Talk
セキュリティー方式	WEP(64,128,152bits)、802.1x/EAP、WPA(TKIP,AES)、 WPA-PSK(TKIP,AES)、MACアドレス接続制限、SSID非通知（ANY接続拒否） ※本製品のモードによって、選択できるセキュリティー方式は異なります。
MACアドレス制限最大登録数	50件
DHCP	DHCPクライアント
アンテナ方式	ダイバーシティ・アンテナ
LED表示	POWER、LINK/ACTランプ
イーサネットインターフェース	10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45)コネクタ
ACアダプター	入力：AC100V 出力：DC 5V　2A
電源電圧	DC 5V
消費電流	最大930mA
動作温度範囲	0～35℃
動作湿度範囲	10 ～ 85%(結露しないこと)
外形寸法	約112(W)mm X 82(D)mm X 35(H)mm　(突起部含まず)
質量	約150g（本体のみ）

●初期値（出荷時設定）

項目	値
装置の名前	wn-g54/a
IPアドレスの設定方法	手動で設定する
IPアドレス	192.168.0.201
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	未設定
SSID	default
チャンネル	6ch(2.437GHz)
転送速度	Auto
動作モード	802.11g/b
SuperGモード	無効
暗号化	無効
MACアドレス接続制限	無効
ログインユーザー名	admin
パスワード	未登録(入力不要)

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困った時には】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター

電話：　本社…**076-260-3644**　東京…**03-3254-1144**
※受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX：　本社…**076-260-3360**　東京…**03-3254-9055**

インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

１．ご使用の弊社製品名
２．ご使用のパソコン本体の型番
３．ご使用のOSのバージョン
４．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて
修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について
・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。
・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
　※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

【ご注意】

1)本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2)本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4)本製品は日本国外では使用できません。
5)本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6)本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7)お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
8)弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

● I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
● Microsoft,Windowsは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
● Apple, Macintosh, Power Macintosh, PowerBook, iMac, iBook, Power Mac, Mac, Mac OS, AirMac, Mac OS ロゴおよびその標章は、米国Apple Computer,Inc.の登録商標です。
●その他、一般に会社名、サービス名、ソフト名、製品名は各社の商標または登録商標です。

WN-G54/A　取扱説明書

2004.Jun.01　150456-01

発 行　株式会社アイ･オー･データ機器

〒920-8512 石川県金沢市桜田町３丁目１０番地